

沖縄県の国際交流 (交流推進課業務概要)

令和5年3月
沖縄県文化観光スポーツ部
交流推進課

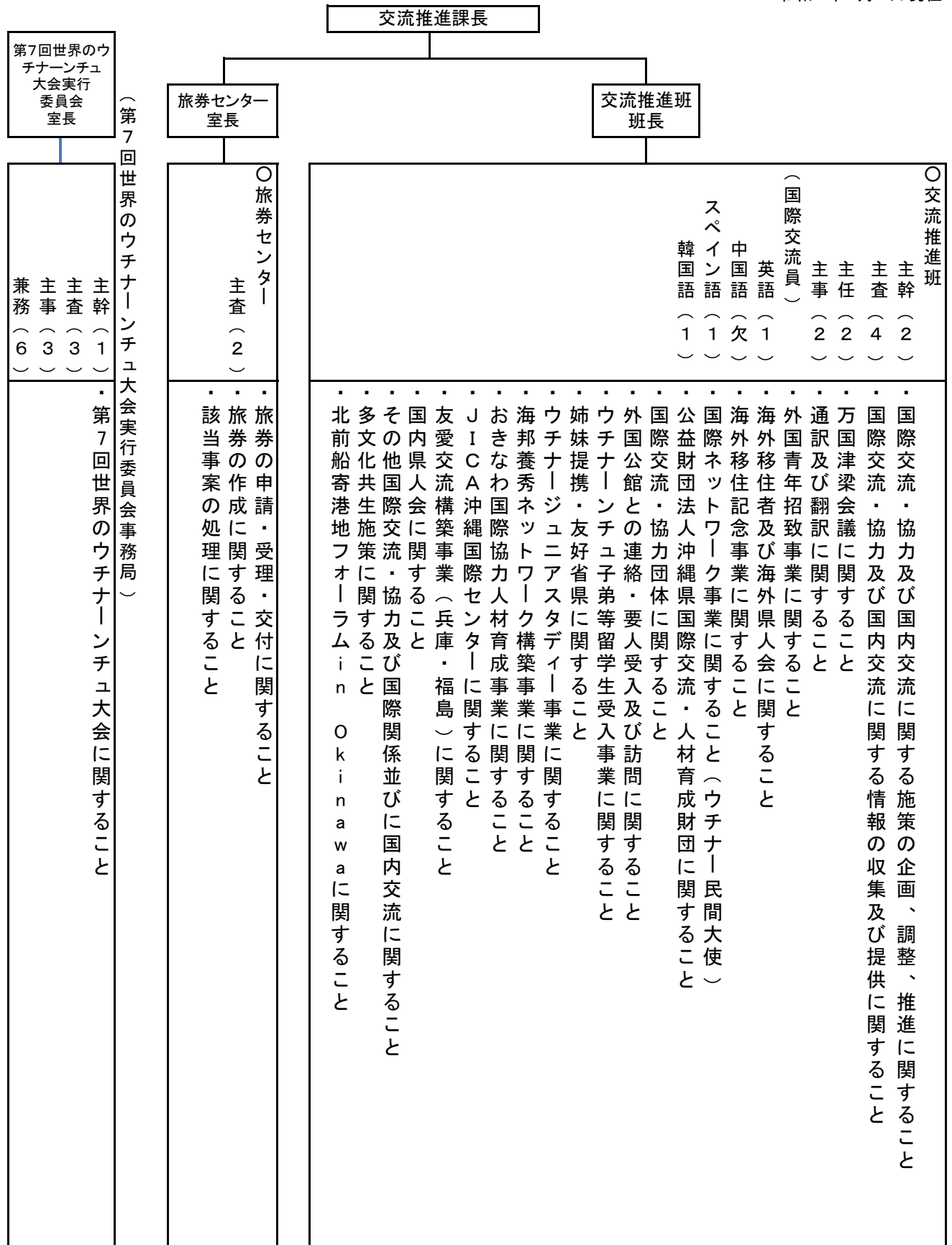
目 次

交流推進課業務概要

1	交流推進課組織図及び業務内容	1
2	交流推進課 交流推進班の業務概要	
(1)	世界のウチナーネットワーク強化推進事業	2
(2)	外国青年招致事業（JETプログラム）	6
(3)	ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業	10
(4)	海外派遣留学生	12
(5)	ウチナー民間大使の認証	13
(6)	ウチナージュニアスタディー事業	32
(7)	海邦養秀ネットワーク構築事業	34
(8)	ウチナーネットワークサポート事業	36
(9)	おきなわ国際協力人材育成事業	37
(10)	多文化共生推進調査事業	40
(11)	沖縄・兵庫友愛キャンプ	41
(12)	うつくしま・ちゅらしま交流事業	42
(13)	沖縄福建友好県省交流事業	43
3	旅券センターの業務概要	46
4	海外移住者の支援とネットワークづくり	49

1 沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課 組織図及び業務内容

令和4年4月1日現在



2 交流推進課 交流推進班の業務概要

(1) 世界のウチナーネットワーク強化推進事業

ア 事業目的・概要

平成28年に開催された第6回世界のウチナーンチュ大会において「世界のウチナーンチュの日」が10月30日と制定されたことを受けて、同記念日を世界中で沖縄の風土や伝統文化等に想いを馳せる象徴的な日として定着させ、ウチナーネットワークの継承・発展をより効果的に進めることを目的とする。

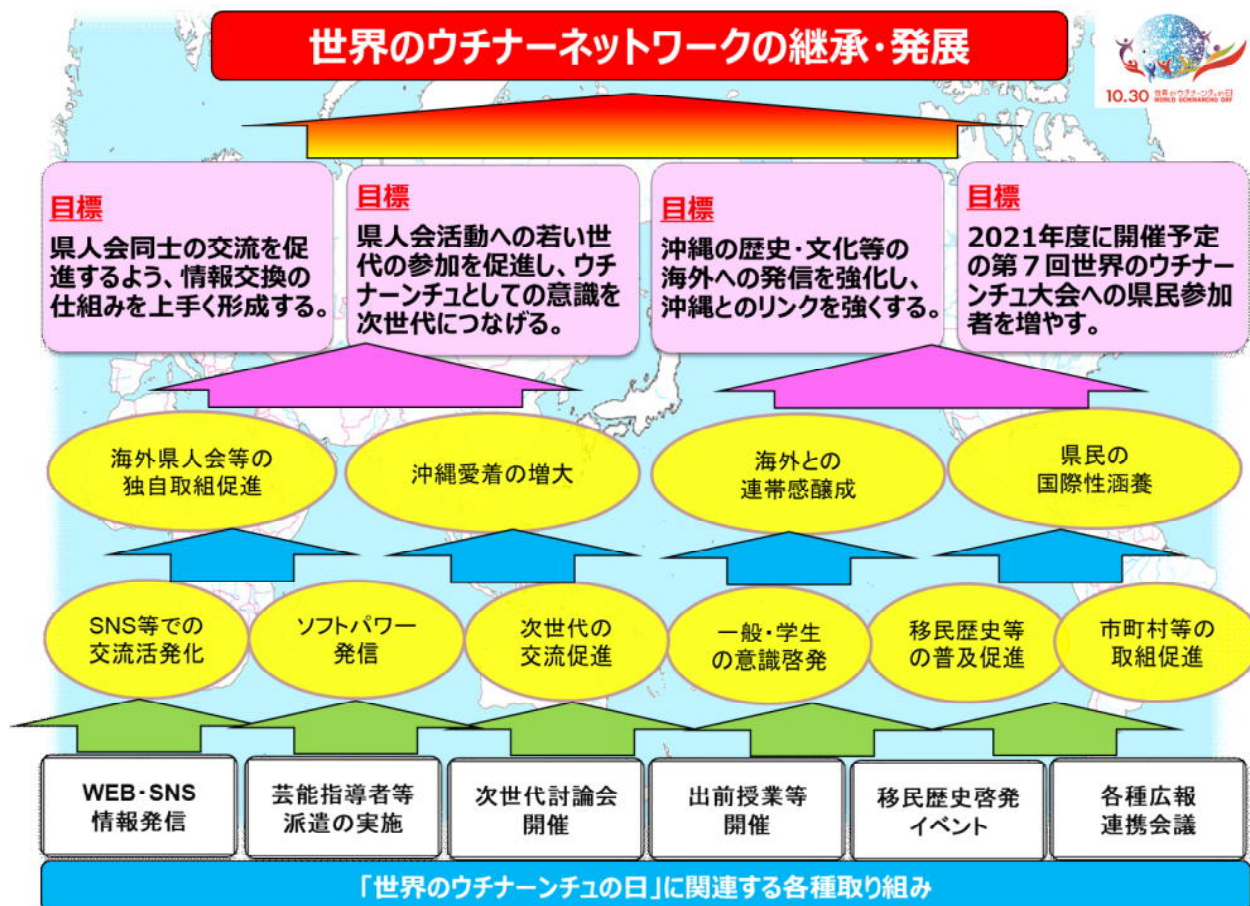
イ 令和4年度事業内容

令和4年度は、「第7回世界のウチナーンチュ大会」と連携しながら「世界のウチナーンチュの日」に関する様々な取組を実施した。

県内小中学校を中心に沖縄の移民の歴史や世界のウチナーンチュ大会について学ぶ出前講座等を実施し、大会参加の機運醸成を図った。

大会プレイベントとして、海外県人会への芸能指導を行う県の取組を紹介するオンラインイベント「OKINAWA GEINO Chimu Don! EXPO 2022」を開催した。普段見ることのできない海外県人会の文化活動や沖縄の芸能の魅力を広くPRするとともに、海外のウチナーンチュの沖縄への想いを発信できた。その他、大会終了後に世界のウチナーンチュの日にちなんだトークイベントを開催し、大会を振り返る機会を提供した。

このような取組を通して、世界のウチナーンチュの日の活性化と、世界中に広がるウチナーネットワークの継承・発展に努めた。



【事業一覧】

	取組名称	実績	概要
1	レッツスタディ！ウチナーネットワーク指導者養成講座	①9/23(金) ②10/1(土) 参加者計：44名	ウチナーネットワークの重要性や、移民の歴史、県系人の移住地での生活・文化に関する講座等を担う指導者を養成するための講座を開催した。「世界のウチナーンチュ大会に関わってみたい」という関心を持った市民を主な対象に、全2回の講座を実施した。 ①沖縄移民の歴史講座、トークショー、ワークショップ ②広報講座、ワークショップ
2	「世界のウチナーンチュの日」トークイベント	12/15(木) @パレット市民劇場 参加者：120名	アーティストのアルベルト城間氏とバンドHYをゲストにトークイベントを開催した。第7回世界のウチナーンチュ大会終了後に開催したことで、参加者に同大会を振り返る機会を提供できた。その他、プログラム変更のため大会開会式で披露できなかったHYと那覇高校吹奏楽・合唱部による歌の披露も行われた。
3	沖縄文化芸能指導者派遣事業「OKINAWA GEINO Chimu Don! EXPO 2022」	10/1(土) @オンライン 視聴回数：1,200回(令和5年1月19日現在)	県による海外県人会への芸能指導を行う取組を紹介するオンラインイベントを開催した。今年の指導先であるボリビア沖縄県人会、カルガリーオキナワクラブの成果披露や、過去に指導した団体と指導者のトークなどをオンラインでライブ配信した。
4	次世代討論会	1/15(日) @オンライン 参加者：29名	ボリビアの交流等を具現化するため必要な取組についての意見交換をメインに、若者だからこそできることを海外・県内の若者が共に考える次世代討論会を行った。
5	沖縄文化芸能指導者派遣事業座談会	1/31(火) @沖縄県男女共同参画センターにいる	第三者的な立場の有識者(専門家)及び関係者による、本事業の5カ年に渡る取り組み・成果について客観的かつ多角的に分析する座談会を行った。

	取組名称	実績	概要
6	レッツスタディ！ウチナーネットワーク出前講座	7月～12月まで実施 @対面、オンライン 参加団体及び参加者：22団体、2,113名	県内小中高校、大学等を中心に、ウチナーネットワークの重要性や、移民の歴史、県系人の移住地での生活・文化に関する出前講座を実施した。
7	沖縄文化芸能指導者派遣事業 ①ボリビア沖縄県人会(ボリビア) ②カルガリーオキナワクラブ(カナダ)	9月に指導を実施	・海外県人会が主体となって取り組む世界のウチナーンチュの日のイベント等に対して沖縄から芸能指導者を派遣し、エイサー、琉舞、三線等を指導することで、継続的な県人会活動の支援と現地における沖縄のソフトパワー発信に取り組む。 ・令和4年度は、コロナ禍のためオンラインによる指導を実施。10/1のオンラインイベントで成果を披露した。
8	移民の歴史啓発事業(市町村支援)	10月～11月 各市町村にて実施	移民の歴史等を紹介する「ウチナーネットワーク啓発パネル」及び過去に上演した「移民劇データ」を作成し、希望のあった県内市町村へ貸与し(過年度含む)パネル展や上映会開催を支援することで、より多くの県民が移民の歴史等を学ぶ機会拡大に取り組んだ。

	取組名称	時期	概要
1	①移民関係企画展示「沖縄県系移民資料アレコレ」 ②ルーツ調査ブースの設置	①10/19～11/7 ②10/29～11/3 @沖縄県立図書館	①第7回ウチナーンチュ大会の開催に合わせ、これまで収集した県系移民の関連資料を展示し、県系移民の歴史や足跡、現在の活動状況等を紹介。 ②移民一世の出身地などを探す「ルーツ調査」ブースの設置。
2	海を越えたウチナーンチュ	9/2～11/6 @沖縄県立博物館美術館	海を越えたウチナーンチュが大切に所蔵してきた資料や移民事業に関する資料や世界のウチナーンチュ大会に係る資料等を紹介。

ウ 海外県人会及び県内市町村等による取組

海外県人会や県内市町村等に対し、「世界のウチナーンチュの日」に因んだ取組の実施を呼びかけたところ、令和4年度は世界的にコロナの状況が落ち着きつつあることや、第7回世界のウチナーンチュ大会の開催の影響もあり、前年度より取組数が増えている。

参考：各年度国内外取組団体数の推移

平成29年度 23団体（市町村10、海外県人会13）

平成30年度 33団体（市町村15、海外県人会18）

令和元年度 50団体（市町村17、県機関3、県内団体等10、海外県人会20）

令和2年度 22団体（市町村14、県機関1、県内団体等2、海外県人会5）

令和3年度 23団体（市町村13、県機関1、県内団体等4、海外県人会5）

令和4年度 34団体（市町村19、県機関2、県内団体等3、海外県人会10）

【海外県人会等による取組一覧】

県内交流団体

海外県人会等

団体所在地	団体名	イベント	国	海外県人会等名	イベント
1 北中城村	あやかりの杜図書館	世界のキタナカグスクンチュ ～北中城村×ハワイ～	1 ブラジル	カンボグランデ沖縄県 人会	ウチナーンチュの日
2 沖縄市	コザインターナショナル プラザ(KIP)	第7回世界のウチナーンチュ 大会 in 沖縄市～ただいま！ おかえり！～	2 アメリカ	オハイオ州沖縄友の会	World Uchinanchu Day Celebratio
3 名護市	名桜大学	世界のウチナーンチュの日 企画展「世界のウチナーン チュ軌跡と未来」	3 カナダ	カルガリーオキナワ ンクラブ	世界のウチナーンチュの日、 設立40周年記念のお祝い
			4 オーストラリア	ゴールドコースト沖縄 県人会	オキナワナイト
			5 アメリカ	コロラド州沖縄県人会	ユンタク、三味線、踊り、カラ オケ、軽食等の会
			6 オーストラリア	シドニー沖縄県人会	Okinawa Festival
			7 アメリカ	フェイエットビル沖縄県 人会	沖縄紹介紹介コーナーの設 置、県人会食事会
			8 アルゼンチン	在壱沖縄連合会	文化、食、音楽などを紹介す るイベント。エイサー、おどり、 三線を演奏
			9 オーストラリア	メルボルン沖縄県人会	かりゆしナイト
			10 アメリカ	ワシントンDC沖縄会	沖縄の音楽を流しながら食事 会

【県内市町村による取組一覧】※第7回世界のウチナーンチュ大会市町村イベント含む

	市町村	実施時期	概要
1	那覇市	10月	パネル展
2	宜野湾市	10月	パネル展
3	石垣市	10月	パネル展
4	浦添市	10月～11月	①世界のウラシマンチュウ歓迎会 ②南米移住者子弟研修生受入事業
5	名護市	①5月～9月 ②11月	①移民学習 ②世界のナグンチュウ大会（歓迎会）

	市町村	実施時期	概要
6	沖縄市	①9月 ②11月	①世界のウチナーンチュウの日 移民パネル展示 ②世界のウチナーンチュウ大会 歓迎レセプション
7	うるま市	10月	パネル展
8	南城市	11月	市内史跡巡り、交流会
9	東村	10月	パネル展
10	恩納村	10月	パネル展

	市町村	実施時期	概要
11	宜野座村	10月	パネル展
12	金武町	10月	第7回世界のシマヌチュウ大会
13	読谷村	11月	世界のユンタンザンチュウ歓迎レセプション
14	嘉手納町	11月	世界のカデナマンチュウ歓迎のタベ
15	北谷町	11月	世界のチャタンチュウ歓迎会

	市町村	実施時期	概要
16	中城村	11月	村内視察、交流会
17	西原町	10月	①世界のニシハラマンチュウの集い（西原まつりと同時開催） ②移民展
18	与那原町	11月	ユナバルマンチュウの集い
19	南風原町	10月	第91回企画展「世界のふえ～ばるんちゅ」展

(2) 外国青年招致事業

(JETプログラム The Japan Exchange and Teaching Programme)

ア 事業目的・概要

外国青年招致事業は総務省、外務省、文部科学省および一般財団法人自治体国際化協会の協力の下に実施され、外国語教育の充実と地域レベルの国際交流の進展を図るものである。このプログラムは、わが国と諸外国との相互理解の増進とわが国の地域の国際化の推進に資することを目的として、昭和62年度に開始されている。

趣旨…………… 外国青年を招致し、地方公共団体の行政部門や教育委員会、小・中・高等学校等において、国際交流活動や語学指導あるいは地域住民との交流活動に従事させ、本県の語学指導の充実と国際交流の促進を図る。

職種…………… 外国青年の職種は、国際交流員（CIR）及び外国語指導助手（ALT）、スポーツ国際交流員（SEA）に分かれる。※沖縄県はSEA無し。

職務…………… ● 国際交流員（C.I.R. Coordinator for International Relations）
国際交流活動に従事する者。県及び市町村において、主に次の業務を行っている。
(ア) 地方公共団体の国際交流関係事務の補助（外国語刊行物等の編集・翻訳・監修、国際経済交流事業を含む国際交流事業の企画・立案及び実施に当たっての協力・助言、外国からの訪問客の接遇、イベント等の際の通訳等）
(イ) 地方公共団体の職員、地域住民に対する語学指導への協力
(ウ) 地域の民間交流団体の事業活動に対する助言、参画
(エ) 地域住民の異文化理解のための交流活動への協力

● 外国語指導助手（A.L.T. Assistant Language Teacher）
語学指導に従事する者。県及び市町村の教育委員会又は小・中・高等学校等において、主に次の業務を行っている。
(ア) 小・中・高等学校における外国語授業等の補助
(イ) 小学校における外国語活動等の補助
(ウ) 外国語教材作成の補助及び外国語能力コンテスト等への協力
(エ) 外国語担当教員に対する現職研修への補助
(オ) 特別活動及び課外活動への協力
(カ) 地域における国際交流活動への協力

雇用契約期間 …………… 1年間（条件を満たせば原則として2回（3年間）まで更新が可能。ただし、契約団体において勤務実績、経験、能力を考慮の上、特に優れた者については、最高4回（5年間）までの再契約が可能。）

イ 沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課採用国際交流員名簿

	氏 名	国 籍	期 間
1	リアーナ V. ピールグレン	オーストラリア	S62.8 ~ S63.7
2	アンドリュウ J. ヒルトン	オーストラリア	S63.8 ~ H1.7
3	キャロル・デニガー	カナダ	H1.8 ~ H2.7
4	ジョアン C. ヨセモリ	アメリカ	H2.8 ~ H3.7
5	ウエンディ M. レインフォード	アメリカ	H3.8 ~ H4.7
6	羅 冠升 (ラ・カンショウ)	中国	H4.4 ~ H5.3
7	ジェニファー B. リクトマン	アメリカ	H4.7 ~ H6.7
8	游 曉東 (ユウ・ギョウトウ)	中国	H5.4 ~ H6.3
9	夫 龍凡 (フ・ヨンボン)	韓国	H5.4 ~ H6.3
10	トレイシー・ミシェル・ローレンズ	アメリカ	H5.7 ~ H6.7
11	林 敏榕 (リン・ミンロン)	中国	H6.4 ~ H7.4
12	李 連熙 (イ・ヨンヒ)	韓国	H6.4 ~ H9.4
13	ペリー・バーネット	アメリカ	H6.7 ~ H8.7
14	ケネス・マー	アメリカ	H6.8 ~ H7.7
15	仲宗根 マリア	ペルー	H7.4 ~ H10.4
16	金 華 (キン・カ)	中国	H7.5 ~ H8.4
17	ローレン・サルツマン	アメリカ	H7.7 ~ H8.7
18	尚 錦傑 (ショウ・キンケツ)	中国	H8.4 ~ H9.4
19	シェイン・ニューベリー	ニュージーランド	H8.7 ~ H11.7
20	ポーラ・ジェームソン	カナダ	H8.7 ~ H10.7
21	徐 喜子 (ソ・ヒザ)	韓国	H9.4 ~ H12.4
22	張 萍 (チョウ・ヘイ)	中国	H9.4 ~ H10.4
23	劉 愛兵 (リュウ・アイビン)	中国	H10.6 ~ H11.4
24	ジョイ・サクライ	アメリカ	H10.7 ~ H12.7
25	李 占衛 (リ・ジャンウェイ)	中国	H11.4 ~ H12.4
26	ヴィクトリア・アラナ イサ	ペルー	H11.4 ~ H14.4
27	サムエル・クルックス	イギリス	H11.7 ~ H12.7
28	郭 恵珍 (グオ・フイジェン)	中国	H12.4 ~ H13.4
29	洪 智善 (ホン・ジソン)	韓国	H12.4 ~ H15.4
30	ジェニファー・リン	オーストラリア	H12.7 ~ H13.1
31	セイディ・ファリントン	イギリス	H12.7 ~ H13.7
32	馮 雁 (ヒョウ・ガン)	中国	H13.4 ~ H15.4
33	ポール・サエキ	オーストラリア	H13.7 ~ H14.7
34	イアン・レイドロウ	ニュージーランド	H13.8 ~ H16.8
35	ディアナ・エミ・イゲイ	ペルー	H14.4 ~ H17.4
36	フレデリック・バリル	カナダ	H14.9 ~ H17.8
37	何 琴 (カ・キン)	中国	H15.4 ~ H16.4
38	李 榮子 (イ・ヨンジャ)	韓国	H15.4 ~ H18.4

	氏 名	国 籍	期 間
	39 潘 輝 (パン・キ)	中 国	H16.4 ~ H17.4
	40 イレイン・チャン	ニュージーランド	H16.8 ~ H18.8
	41 戎 芬 (ロン・フェン)	中 国	H17.4 ~ H18.4
	42 内田 グロリア	ペ ル ー	H17.4 ~ H22.4
	43 リー・マクレイビー	カ ナ ダ	H17.7 ~ H20.7
	44 金 蓮淑 (キム・ヨンスク)	韓 国	H18.4 ~ H22.4
	45 馬 晶 (マ・ジン)	中 国	H18.4 ~ H19.4
	46 ガブリエル・クロフォード	ア メ リ カ	H18.8 ~ H20.8
	47 曾 嵐 (ソ・ラン)	中 国	H19.4 ~ H20.4
	48 劉 亜燕 (リュウ・アエン)	中 国	H20.4 ~ H21.4
	49 マシュー・アンダーソン	ア メ リ カ	H20.7 ~ H23.7
	50 エリック・ワン	カ ナ ダ	H20.7 ~ H22.7
	51 周 英 (シュウ・エイ)	中 国	H22.4 ~ H22.4
	52 金 珍 (キム・ジン)	韓 国	H22.4 ~ H27.4
	53 王 百為 (オウ・ヒヤクイ)	中 国	H22.4 ~ H24.4
	54 穂積 儀間 クラウディア 直美	ペ ル ー	H22.4 ~ H24.4
	55 エリザベス・ロイター	ア メ リ カ	H23.7 ~ H26.7
	56 当山・樋口・アルトゥーロ	ペ ル ー	H24.4 ~ H29.4
	57 傳 ルイナ (フ・ルイナ)	中 国	H24.4 ~ H25.4
	58 胡 斌 (フ・ビン)	中 国	H25.4 ~ H29.4
	59 ホセ・ラマザーレス	ア メ リ カ	H26.8 ~ H29.5
	60 ファルコニー・ペニャ・アレハンドラ ・ガブリエラ・テッシー	ペ ル ー	H29.4 ~ H31.4
	61 スルチャンスキー・キマ ・ヒラオカ・シズコ	ア メ リ カ	H29.7 ~ R1.7
	62 朴 垠祉 (パク・ウンジ)	韓 国	H27.4 ~ R2.4
	63 肖 錦彬 (シャオ・ジンビン)	中 国	H29.4 ~ R4.3
☆	64 早川・ブルゴス・アンドレア・ジャネット	ペ ル ー	H31.4 ~
	65 フラナガン・シオン・ニコラス	ア メ リ カ	R1.7 ~ R3.7
☆	66 李 永根 (イ・ヨンゲン)	韓 国	R2.12 ~
☆	67 カストングエ シャニクアピ	カ ナ ダ	R3.9 ~

☆令和5年3月末現在の沖縄県国際交流員

ウ 令和4年度 市町村における国際交流員の国別内訳（R5.3.31時点）

浦添市：アメリカ1名（英語圏）

宜野湾市：カナダ1名（英語圏）

座間味村：フランス1名

宜野座村：アメリカ1名（英語圏）

(3) ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業

ア 留学生受入事業

○目的

この事業は、沖縄県出身移住者子弟及びアジア諸国等から優秀な人物（以下「留学生」という。）を選抜し、県内の大学や県内企業、伝統芸能修得機関（以下「大学等」という。）で就学・研修させるとともに、沖縄の歴史・文化・習慣の理解促進、県内企業での実務経験、県民との交流促進等の機会を提供することで、次世代へのウチナーネットワーク継承に向けて将来的に本県と出身国との架け橋になる人材を育成し、本県との国際交流に寄与せしめることを目的とする。

○事業内容

本事業は科目等履修生コースと伝統芸能取得コースの2つを設けている。

①科目等履修生コース

県内の各大学で科目履修生として就学する。

②伝統芸能修得コース

県内の日本語学校で数ヶ月学んだ後、伝統芸能を教えている各学校・教室・施設で技術研修をする。

○事業経緯

昭和44年にポリビアからの県系人子弟留学生1名を受け入れて以来、令和4年度までに15か国1地域から計676名を受け入れている。

(ア) 海外移住者子弟留学生受入状況（留学期間1年）

国名	年度	開始年度	～8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	合計
ポリビア	S.44	27	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	2	2	1	1	3	3	1	2	0	2	0	56	
ブラジル	S.45	53	4	2	4	2	3	2	3	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	0	0	2	106	
アルゼンチン	S.46	28	2	1	2	2	2	2	2	2	1	2	1	1	2	2	4	2	4	2	1	1	2	2	2	0	0	1	72	
ペルー	S.49	30	2	3	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	1	0	0	1	72	
米国(ハワイ)	S.55	24	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	44	
〃(本土)	S.56	18	3	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	2	0	1	0	1	2	3	1	0	1	0	0	1	44	
カナダ	S.58	16	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	34	
メキシコ	H.1	8	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	
イギリス	H.24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
計		204	16	12	15	12	12	11	11	9	9	8	7	7	9	8	9	9	10	9	9	9	12	11	8	9	0	2	6	444

(イ) アジア諸国等海外留学生受入状況（留学期間1年）

国名	年度	開始年度	～7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	合計
台湾	S.57	25	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	2	2	2	3	1	0	0	1	65
フィリピン	S.57	13	0	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
タイ	S.58	14	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
シンガポール	S.59	12	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
マレーシア	S.60	11	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
インドネシア	S.60	11	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
韓国	S.63	13	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	29
中国(福建)	H.7	1	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	31
計		100	10	10	11	8	11	11	10	9	5	4	3	3	3	3	3	3	1	3	3	3	4	3	0	0	1	222

※平成27年度10月から台湾、中国（福建省）に限定して再開。

(ウ) ポリビア移住者子弟農業留学生受入状況（留学期間2年）

国名	年度	開始年度	～6	7～8	9～10	11～12	13～14	15～16	17以降	合計
ポリビア	S.57		5	1	1	1	1	1	0	10

(エ) 海外留学生受入実績（ア～ウの合計）

国名	年度	開始	～8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1	R2	R3	R4	合計
	開始	年度																												
合計	S.44		320	27	23	24	23	24	21	21	14	13	11	10	10	12	11	10	9	10	9	12	15	14	12	12	0	2	7	676

イ 私費外国人留学生奨学金給付事業

○目的

県内に在住する私費外国人留学生に奨学金を給付することにより、学業に専念できる環境をつくとともに、本県と出身国との国際交流の架け橋となる人材を育成することを目的としている。

○事業内容

奨学金は月額1万円×10か月（年額10万円、5月～翌年2月）を給付する。奨学金の給付を受けようとする者は申請書に外国人登録証明書の写し等を添え、在籍大学の長を通じて知事に提出する。

○事業経緯

平成15年度より事業開始。平成23年度までに12カ国1地域180名に対して奨学金を給付している。 ※県民視点事業棚卸しにより平成23年度で事業終了。

○給付実績

(ア) 大学別内訳

年度 (H)	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
大学名										
琉球大学	7	6	6	5	6	6	5	5	4	46
沖縄国際大学	4	6	8	8	9	8	7	7	9	57
名桜大学	6	1	2	0	0	0	0	0	0	9
沖縄大学	1	4	2	6	3	5	5	6	6	32
沖縄県立芸術大学	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
キリスト教短期・学院大学	2	2	1	1	2	1	2	1	1	12
沖縄女子短期大学	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	180

(イ) 国別内訳

年度 (H)	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
国名										
中国	13	13	13	16	14	17	16	16	13	118
台湾	1	1	3	0	0	0	2	1	1	8
韓国	0	1	1	1	1	0	0	0	0	4
インドネシア	1	2	1	2	3	3	1	2	3	15
バングラデシュ	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
スリランカ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
ベトナム	2	0	0	0	0	0	0	1	1	4
アメリカ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
カナダ	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
ロシア	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
タンザニア	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
象牙海岸共和国	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
マレーシア	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
フランス	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
ドイツ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	180

(4) 海外派遣留学生

ア 台湾奨学金留学生（台湾教育部による受入事業）

本県が昭和57年度より台湾の留学生を受け入れていることに対して、台湾が互恵と答礼の意味を込めて平成4年度より開始した事業で、毎年、本県からの留学生2名を台湾が受け入れている。（平成17年度から現名称。元「中華民国特設琉球青年奨学金留学生」）

※平成22年度に行われた県民視点の事業棚卸しにより、平成23年度で事業は終了したが、平成27年度より再開。

イ 中国福建省派遣留学生（中国福建省による受入事業）

1996年11月14日に開催された「第3回沖縄県・福建省サミット」の合意に基づき中国福建省が開始した事業で、本県から1名の留学生を福建省が受け入れている。中国語の習得を通して中国の政治・経済・文化に対して理解を深めるとともに、沖縄県と福建省の友好交流の推進に資することを目的としている。

(ア) 台湾奨学金留学生

年度	～8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	28	29	30	1	2	3	4	計
人数	5	2		2	2		2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	44

(イ) 中国福建省派遣留学生

年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	25	27	29	30	1	2	3	4	計
人数	1		1				1		1		1		1		1	1	1	1	0	1	0	1	0	12

(5) ウチナー民間大使の認証

ア 事業目的・概要

明治の中頃より始まった沖縄からの南米、北米、ハワイ等への移住者は現在その子々孫々が5世までに至っており、約42万人のウチナーンチュが海外で活躍している。

平成2年8月、世界各地で活躍するウチナーンチュのネットワークづくりの先駆けとなることを目指し「第1回世界のウチナーンチュ大会」が開催された。同大会を契機に、ネットワークの人的拠点として「ウチナーンチュ民間大使」制度が創設された。

その後、平成9年度には、名称を「ウチナー民間大使」と変更し、通信費等として全員に年間4万円の支給を開始した。

さらに平成16年度には、これまでであった任期、報償金、人数枠を廃止し、新たに活動助成事業を設置して、「新ウチナー民間大使」と名称も変更したが、新制度となって十分時間も経過し周知されたとみなし、平成28年度に再度「ウチナー民間大使」へ名称を変更した。

令和5年3月末現在では、282名が「ウチナー民間大使」として認証され、その在住地域における沖縄県との交流の懸け橋となっている。

沖縄県においては、この「ウチナー民間大使」の活動支援等を柱とし、「沖縄」をキーワードに沖縄にゆかりのある関係者全てを巻き込んだ「世界のウチナーネットワーク構想」を打ち出し、国際ネットワークの構築・拡大を図ってきている。

イ ウチナー民間大使の認証の状況

平成2年8月、世界各地で活躍するウチナーンチュのネットワークづくりの先駆けとなることを目指し「第1回世界のウチナーンチュ大会」の開催を契機に、県ではウチナー民間大使制度を創設し、これまで496名を認証してきたが、平成16年度より、これまでの制度を改正した。ウチナー民間大使制度では、これまでであった定員や任期を廃止し、発足時からこれまでのウチナー民間大使を改めて認証していくとともに、主に海外で活躍し、沖縄との交流の懸け橋となりうる者については、新たにウチナー民間大使として随時認証していく方針としている。

<年度別ウチナー民間大使の認証>

- (ア) 第1回認証（平成2年8月）：18か国4地域100人
- (イ) 第2回認証（平成4年11月）：21か国4地域125人
- (ウ) 第3回認証（平成9年11月）：29か国4地域92人
- (エ) 第4回認証（平成12年4月）：31か国3地域97人
- (オ) 第5回認証（平成14年4月）：27か国3地域82人
- (カ) 平成16年度：15か国1地域95人
- (キ) 平成17年度：22か国2地域157人
- (ク) 平成18年度：23か国2地域188人

- (ケ) 平成19年度：28か国 2 地域220人
- (コ) 平成20年度：28か国 2 地域217人
- (カ) 平成21年度：28か国 2 地域219人
- (シ) 平成22年度：28か国 3 地域218人
- (ス) 平成23年度：28か国 3 地域227人
- (セ) 平成24年度：認証なし
- (ソ) 平成25年度：28か国 3 地域253人
- (タ) 平成26年度：28か国 3 地域242人
- (チ) 平成27年度：31か国 3 地域251人
- (ツ) 平成28年度：31か国 3 地域272人
- (テ) 平成29年度：31か国 3 地域266人
- (ト) 平成30年度：31か国 3 地域266人
- (ナ) 令和元年度：31か国 3 地域265人
- (ニ) 令和2年度：31か国 3 地域263人
- (ヌ) 令和3年度：31か国 1 地域262人
- (ノ) 令和4年度：29か国 1 地域282人

ウ ウチナー民間大使名簿

平成2年8月、世界各地で活躍するウチナーンチュのネットワークづくりの先駆けとなることを目指し「第1回世界のウチナーンチュ大会」の開催を契機に、県ではウチナー民間大使制度を創設し、これまで496名を認証してきたが、平成16年度より、これまでの制度を改正した。ウチナー民間大使制度では、これまでであった定員や任期を廃止し、発足時からこれまでのウチナー民間大使を改めて認証していくとともに、主に海外で活躍し、沖縄との交流の懸け橋となりうる者については、新たにウチナー民間大使として随時認証していく方針としている。

令和5年3月末現在でのウチナー民間大使は、下記のとおり。

アジア・オセアニア

No	国・地域	氏名
1	インドネシア	太田 勉
2	インドネシア	ジャハリ ダスド サラギ
3	オーストラリア	照屋 なつき
4	オーストラリア	フィッシャー 兼村 ヒロコ
5	オーストラリア	真紀子 ウォング
6	オーストラリア	比嘉 恵子
7	カンボジア	ベン・ラタナー
8	グアム	新崎 盛弘
9	グアム	ガイエル ティモシー カール
10	シンガポール	遠山 光一郎
11	シンガポール	ナンシー ウォン スー ビー
12	ニューカレドニア	オグスト ジャンビエール ゼンクロ
13	ニューカレドニア	マリージョゼ タカムネ ミッシェル
14	フィリピン	親泊 留美子
15	フィリピン	明美 マルガリタ 高安 ウマリ
16	フィリピン	マリヤ コラツ エバンヘリョ アデルン
17	フィリピン	エステラ アリエホ アドルホ
18	フィリピン	クリスティナ ウマリ
19	マレーシア	ジョン クナ ラジ
20	マレーシア	松田 めぐみ
21	マレーシア	宮城 洋子
22	マレーシア	ハヤティ モハマド サレー
23	ヴェトナム	嘉数 昇吾
24	韓国	照屋 勉
25	韓国	洪 鍾必
26	韓国	大城クリスティーナ百恵
27	台湾	蔡 雪泥
28	台湾	陳 保佑
29	台湾	史丹利
30	中国	香港 福島 秀世
31	中国	香港 松本 真澄
32	中国	香港 又吉 真由美
33	中国	香港 末吉 二葉
34	中国	香港 袁 文英
35	中国	福建省 吉元 耕己
36	中国	福建省 山城 智史
37	中国	福建省 潘 輝
38	中国	遼寧省 池宮城 克子
39	中国	上海市 照屋 慶子
40	中国	上海市 崎浜 秀彦
41	中国	Tokyo Panda
42	中国	上海市 勝山 亮
43	中国	上海市 馮 坤範
44	中国	上海市 東浜 永松
45	中国	上海市 蔣 豪
46	中国	北京市 胡 波
47	中国	上海市 西原 圭佑

ヨーロッパ・アフリカ

No	国・地域	氏名
48	ザンビア	高良 初子
49	タンザニア	金城 拓真
50	イギリス	石垣 栄康
51	イギリス	マイケル ランジ
52	イギリス	森田 恵美子
53	イタリア	宮城 健吾
54	スイス	平敷 秀人
55	スロバキア	クレメンティス ラディスラフ
56	ドイツ	ハーン 内間 ゆかり
57	ドイツ	松川 カ
58	ドイツ	外間 久美子
59	ドイツ	上原 教弘
60	ドイツ	中山 聡
61	ドイツ	崎原 永人
62	フランス	中山 久高 泰子
63	フランス	知念 祐紀
64	フランス	ロー・パトリック
65	フランス	ケヴォルク・ディック

66	フランス		大城 洋子
67	フランス		ブリアック・ル＝ミリネール
68	ロシア		ヴァレリー・マイストロヴォイ

中南米

No	国・地域	氏名
69	アルゼンチン	新里 真一
70	アルゼンチン	比嘉 サンティアゴ
71	アルゼンチン	新里 浩
72	アルゼンチン	新垣 定二
73	アルゼンチン	新里 孝徳
74	アルゼンチン	喜屋武 ジュディ アレハンドラ
75	アルゼンチン	仲松 ロベルト
76	アルゼンチン	米須 清文
77	アルゼンチン	東江 ロベルト
78	アルゼンチン	屋宜 宣順
79	アルゼンチン	玉那覇 オラシオ
80	アルゼンチン	玉城 智
81	キューバ	フォンテ イハ フリエタ
82	キューバ	キヨミ トーレス ゴンザレス
83	グアテマラ	ホルヘ アルトゥロ エレラ アルダヴィン
84	コロンビア	崎原 啓子
85	ブラジル	知念 直義
86	ブラジル	与那嶺 ルーベンス
87	ブラジル	照屋 武吉
88	ブラジル	知花 良治
89	ブラジル	仲吉 清盛
90	ブラジル	津嘉山 朝信
91	ブラジル	山城 貞雄
92	ブラジル	外間 剛 マーリオ
93	ブラジル	高安 宏治
94	ブラジル	仲本 順一
95	ブラジル	上原 幸啓
96	ブラジル	伊波 興憲
97	ブラジル	大屋 パウロ
98	ブラジル	与儀 上原 昭雄
99	ブラジル	安富祖 元
100	ブラジル	呉屋 新城 春美
101	ブラジル	瀬名波 美恵子
102	ブラジル	名嘉真 隆 ジョン
103	ブラジル	西銘 光男
104	ブラジル	富山 安徳
105	ブラジル	与那嶺 真次
106	ブラジル	上原 武夫
107	ブラジル	知花 信子 ロザナ
108	ブラジル	宮平 修革 ペードロ
109	ブラジル	具志堅 賀乙留
110	ブラジル	仲川 實留
111	ブラジル	崎間 達雄
112	ブラジル	神谷 牛太郎
113	ブラジル	知念 明
114	ブラジル	田場 ジョルヂ
115	ブラジル	島袋 安雄
116	ブラジル	伊良皆 シゲオ マリオ
117	ブラジル	松堂 忠顕
118	ブラジル	南マットグロッソ州 城間 ヴァルディル シゲイロ
119	ブラジル	南マットグロッソ州 玉城 ジョルジェ 誠二
120	ブラジル	上原 テーリオ
121	ブラジル	大城 健治
122	ブラジル	島袋 栄喜
123	ブラジル	仲地 アウロラ 恭子
124	ブラジル	知念 りょういち マルセーロ
125	ブラジル	テルヤ マルコス セイキ
126	ブラジル	知念 城間 ヴァネッサ
127	ブラジル	知花 ルイ 広三
128	ブラジル	南マットグロッソ州 クリスチャン プロエンサ
129	ブラジル	南マットグロッソ州 源河 ジルセ 君江
130	ブラジル	南マットグロッソ州 金城 エドワルド
131	ブラジル	南マットグロッソ州 志良堂 ニルトン キヨシ
132	ベネズエラ	嘉陽 宗四郎
133	ペルー	池宮城 アウグスト
134	ペルー	比嘉 恒夫 マヌエル
135	ペルー	佐久田 菊子

136	ペルー		徳村 オスカル
137	ペルー		赤嶺 光弘
138	ペルー		名幸 ヨランダ
139	ペルー		金城 ハイメ
140	ペルー		玉城 セサル
141	ペルー		仲田 幸弘
142	ペルー		ハイメ マヌエル デル アギラ
143	ペルー		我那覇 ヘルマン
144	ペルー		屋宜 宣吉 アウグスト
145	ペルー		山城 ホルヘ アキラ
146	ペルー		宮里 裕 エンリケ
147	ペルー		宮城 春子
148	ペルー		真栄城 エンリケ
149	ペルー		知念 フランシスカ
150	ペルー		津覇古 弘
151	ペルー		伊禮 英夫
152	ペルー		諸見里 ドリス
153	ペルー		フェルナド 吉修 仲宗根
154	ペルー		アザマ ヘシケ ファン ヨシカツ
155	ペルー		比嘉 比嘉 ロベルト カズノリ
156	ペルー		ホセ 翁長 ウク
157	ペルー		イジュ デ モロミザト ミエコ
158	ペルー		菅野 ルベン
159	ペルー		小波津 ミゲル
160	ペルー		ファン シマブクロ イナミ
161	ペルー		イサ アラカキ ハリー
162	ペルー		シロタ ヒガ、アンヘル フランシスコ
163	ペルー		コハツ・アロシヤ マリア・ルイサ
164	ペルー		バジェホス コハツ エリサベス カリナ
165	ペルー		与那嶺 エリカ
166	ボリビア		島袋 金文
167	ボリビア		知念 栄子
168	ボリビア		比嘉 次雄
169	ボリビア		儀武 ハビエル
170	ボリビア		金城 原一
171	ボリビア		比嘉 徹
172	ボリビア		山城 信子
173	ボリビア		知念 良信
174	ボリビア		平良 輝幸
175	ボリビア		仲里京美
176	ボリビア		親川 保治 ウーゴ
177	ボリビア		大田 勉
178	ボリビア		イノウエ 悦子
179	メキシコ		田場 佑俊
180	メキシコ		大城 悟
181	メキシコ		山入端 文博

北米

No	国・地域	氏名
182	アメリカ アラスカ州	ロジャー・クニッパ
183	アメリカ イリノイ州	洋子 サンダリン
184	アメリカ イリノイ州	葉 恭平
185	アメリカ イリノイ州	トーマス プレスリー
186	アメリカ イリノイ州	トーマス コラオ
187	アメリカ イリノイ州	ユウジロウ ウザ
188	アメリカ イリノイ州	ミチコ イシカワ
189	アメリカ インディアナ州	ジェイク スキルマン
190	アメリカ インディアナ州	シュラム キャサリン
191	アメリカ カリフォルニア州	富士子 ダンドイ
192	アメリカ カリフォルニア州	本竹 絹子
193	アメリカ カリフォルニア州	当銘 由洋
194	アメリカ カリフォルニア州	イーリィ ジュリアン
195	アメリカ カリフォルニア州	ヘーレン ミエコ シマネ
196	アメリカ カリフォルニア州	当銘 貞夫
197	アメリカ カリフォルニア州	小原 恵
198	アメリカ カリフォルニア州	上原 民子
199	アメリカ カリフォルニア州	徳永 天願 愛子
200	アメリカ カリフォルニア州	比嘉 朝儀
201	アメリカ カリフォルニア州	多和田 ミッシェル 真愛
202	アメリカ カリフォルニア州	岸本 正之
203	アメリカ カリフォルニア州	牧志 智子
204	アメリカ カリフォルニア州	ポール キャンドランド
205	アメリカ カリフォルニア州	上運天 ウェスリー
206	アメリカ カリフォルニア州	山内 繁子

207	アメリカ	カリフォルニア州	比嘉 佐恵子 ディッキンソン
208	アメリカ	カリフォルニア州	デーブ ロバート
209	アメリカ	カリフォルニア州	山内 優子
210	アメリカ	カリフォルニア州	タムリン トミタ
211	アメリカ	カリフォルニア州	林 ハリー
212	アメリカ	カリフォルニア州	ニシウチ ヴィクトリア オオシロ
213	アメリカ	カリフォルニア州	ディビッド・チャンパーズ
214	アメリカ	カリフォルニア州	森田 のりえ
215	アメリカ	カリフォルニア州	照屋 勝子
216	アメリカ	カリフォルニア州	神谷 エドワード キヨシ
217	アメリカ	カリフォルニア州	大城 金城 ジョーン
218	アメリカ	カリフォルニア州	山内 浩
219	アメリカ	カリフォルニア州	山内 クリステン ハツエ
220	アメリカ	コロラド州	宇栄原 寛
221	アメリカ	コロラド州	ジェフ スオーブ
222	アメリカ	コロラド州	ティナ ヒューズ
223	アメリカ	ジョージア州	ルイス 高江洲 佳代子
224	アメリカ	テキサス州	ヴォングルェニゲン 与古田 智枝
225	アメリカ	ジョージア州	フェングラー 金城 恵子
226	アメリカ	ジョージア州	コール・松本 真由美
227	アメリカ	ジョージア州	比嘉 静江 レローバア
228	アメリカ	ジョージア州	米盛 笑子
229	アメリカ	ジョージア州	クレイグ ホイト
230	アメリカ	ニューメキシコ州	宮里 八重子
231	アメリカ	ニューメキシコ州	里 シャンコーズ
232	アメリカ	ニューメキシコ州	サナエ・ライト
233	アメリカ	ニューヨーク州	比嘉 良治
234	アメリカ	ニューヨーク州	落合 三郎
235	アメリカ	ニューヨーク州	伊藤 リキ
236	アメリカ	ニューヨーク州	比嘉 照行
237	アメリカ	ニューヨーク州	てい子 トゥーシー
238	アメリカ	ノースカロライナ州	高江洲 つる子 ワイルド
239	アメリカ	ハワイ州	バーニ 直美 宮城
240	アメリカ	ハワイ州	喜屋武 ケネッス セイイチ
241	アメリカ	ハワイ州	フランクリン 王堂 正一郎
242	アメリカ	ハワイ州	ジョン 田里 友起
243	アメリカ	ハワイ州	アルフレッド 喜納 山
244	アメリカ	ハワイ州	仲宗根 リン 芳子
245	アメリカ	ハワイ州	金城 護
246	アメリカ	ハワイ州	エイコウ 新垣
247	アメリカ	ハワイ州	ジェイク シマブクロ
248	アメリカ	ハワイ州	アイザック 健 外間
249	アメリカ	ハワイ州	ブラッドリー ウィルコックス
250	アメリカ	ハワイ州	小錦 八十吉
251	アメリカ	ハワイ州	山里 モリース 博康
252	アメリカ	ハワイ州	外間 コンラッド イサミ
253	アメリカ	ハワイ州	ロバート 敏夫 仲宗根

エ ウチナー民間大使活動助成事業実績

ウチナー民間大使が行う交流活動等を助成する事業で、平成16年度から実施しています。

単位：千円

年度	地区	民間大使氏名	事業内容	助成額
H16	中国 (香港)	松本 真澄 Matsumoto Masumi	Japan Day-OKINAWA Fair at Hong Kong Baptisto University 香港バプティスト大学において沖縄文化を紹介	900
H16	米国 (ロサンゼルス)	上原 民子 Uehara Tamiko	2005年6月開演予定のミュージカル「海から豚がやってきた！」ロサンゼルス公演の広報活動事業	870
H16	米国 (ハワイ)	ロバート 敏夫 仲宗根 Robert Toshio Nakasone	Worldwide Uchinchu Student Forum 2005 地域と県内留学生達との相互交流を深めるためのフォーラムを開催	210
H17	イギリス (ロンドン)	山城 敬子 Yamashiro Keiko	ロンドンエイサープロジェクト ロンドンにおけるエイサーの普及活動。沖縄より講師を招聘。	553
H17	カナダ (レスブリッジ)	Kinjo Mitsue 金城 光江	カナダ沖縄文化交流使節団招聘事業 沖縄伝統文化のPR・文化継承のため、舞踊研究所のメンバーをカナダに招聘。	1,000
H17	フランス (パリ)	Chinen Yuki 知念 祐紀	沖縄文化広報活動 ビデオやDVDを利用して歴史、文化、自然を紹介する。毎月1回程度、フランス・パリ市内で行う。	61
H17	カナダ (バンクーバー)	Okuma Hitomi 奥間 ひとみ	琉球太鼓の普及活動 県人会やカナダ人に太鼓を通して沖縄への関心を深めてもらう。太鼓等を購入。	212
H18	ペルー (リマ)	Jorge Akira Yamashiro 山城 ホルヘ アキラ	3都市における「沖縄文化キャラバン」 県人会員がエイサーや生花、盆栽、空手等の披露を行い、ペルーで沖縄文化の紹介を行った。	320
H18	ブラジル (サンパウロ)	Mieko Senaha 瀬名波美恵子	ビデオ「ブラジル琉球ブクブク茶道」製作 琉球ブクブク茶道の普及のため、ビデオを製作。	168
H18	米国 (ハワイ)	John Yuuki Tasato ジョン 田里 友起	ウチナーネットワーク Websiteの製作 世界のウチナーが沖縄の情報を気軽に入手でき、情報発信が容易にできるウェブサイトを製作。	1,000

年度	地区	民間大使氏名	事業内容	助成額
H19	米国 (シカゴ)	サンドラ郁子ニコルス Sandra ikuko nichols	沖縄伝統文化（工芸、民芸）紹介、もう一つの日本 ①シカゴの日本祭りにおいて、沖縄の文化を紹介した。 ②訪沖する米国大学生に対し、沖縄の歴史や伝統文化について学ばせるため、講師を依頼した。	76
H19	米国 (アトランタ)	フェングラー金城恵子 Fengler Kinjo Keiko	ジュニアサマーキャンプ キャンプにて琉舞や三線、空手など沖縄の文化、歴史、社会に関する学習や交流を行った。	165
H19	アルゼンチン (ブエノスアイレス)	新垣 定二 Teiji Arakaki	エイサー、沖縄太鼓団体充実化プログラム エイサー指導者を招聘し、沖縄県系人青少年への沖縄文化の継承を図った。	760
H19	ブラジル (ロンドリナ)	伊良皆マリオ Mario Iramina	沖縄伝統文化の復興と普及事業 琉舞衣装やパーランクなどの整備と舞踊グループや舞踊指導者の招聘、指導の教授を行った。	444
H19	中国 (大連)	池宮城 克子 Ikemiyagi Katsuko	大連ファッション祭りでのエイサー 「ファッション祭り」に上海で鍛練を積んだエイサーグループを招聘した。	436
H20	米国 (ミシガン州)	利枝子 ハートセル Rieko Hartsell	スプレnder オブ イースト アジア・パシフィック月間に沖縄文化を紹介。	144
H20	米国 (イリノイ州)	サンドラ郁子ニコラス Sandra Ikuko Nichols	「琉球祭り太鼓」インストラクター招聘 近隣州の県人会と連携を図り、琉球祭り太鼓、エイサー等の指導者を招聘し、次世代の育成と沖縄文化活動普及を図る。	112
H20	スロバキア	クレメンティス ラディスラブ KLEMENTIS Ladislav	「沖縄空手・古武道範士と青年の集い」 伝統的な沖縄空手古武道の国際セミナーと沖縄の歴史、文化、伝統、工芸、生活様式、現代の沖縄、観光の可能性についての講義を開催した。	398
H20	米国 (ハワイ州)	ブラッドリーウィル コックス Bradley Willcox	「沖縄の長寿と文化を促進するDVDビデオプログラムの制作」 沖縄の長寿について沖縄の文化的習慣がどのように健康と寿命に影響するかをポッドキャストとして編集、ウェブサイトで放映。	398
H20	フランス	久高 泰子 Kudaka Yasuko	うどい〜パリ日本文化会館琉球舞踊公演 鈴木信先生の長寿沖縄の秘訣講演 琉舞の披露、長寿についての講演で沖縄への理解と関心を深める。	398

年度	地区	民間大使氏名	事業内容	助成額
H21	米国 (カリフォルニア州)	徳永 天願 愛子 Tokunaga-Tengan Aiko	沖縄文化フェスティバル「いちぬ いちまでいん」の実施。 北米沖縄県人会創立100周年記念事業の一環として、沖縄文化紹介事業を行う。沖縄県人会のメンバーの数世代による琉球民謡、舞踊、琉球国祭り太鼓の披露、空手・古武道の演舞等を実施。	500
H21	オーストラリア	フィッシャー 兼村 ヒロ子 Hiroko Kanemura Fischer	「琉球古典音楽・琉球舞踊」講義・公演実施 国立オーストラリア大学において、学生・講師、教授等に沖縄県より招いた講師に琉球古典音楽・琉球舞踊の講義、実演等を通して沖縄文化の紹介。また、三線の工工四についての説明・他の楽器の構造の説明、特にカンカラ三線の制作等の説明。	181
H21	イギリス	マイケル ランジ Michael Runge	「沖縄県の文化・観光の紹介セミナー」 デンマークのコペンハーゲンにおいて、ネットトラベルスタッフ（デンマーク、フィンランド、スウェーデン、ノルウェー及びイタリア）に対し、沖縄観光セミナーを開催し、沖縄県の観光の誘致を行う。	100
H21	メキシコ	大城 悟 Oshiro Satoru	「日本メキシコ交流400周年、沖縄県人メキシコ移住100年記念事業」 記念事業の一環で、空手・古武道、エイサーの演舞の紹介が行われる。	370
H22	イギリス	マイケル ランジ	旅行者のための沖縄セミナーin モスクワ」の実施 沖縄を訪れるロシア人観光力増加を目的として、ロシアの旅行社に対し沖縄観光セミナーを実施した。沖縄から遠く離れた国に沖縄観光をPR	120
H22	米国 (カリフォルニア州)	上運天 ウェスリー	「ぬちどう宝 ～沖縄戦から得た教訓～」をテーマによる展示会・シンポジウムの開催 沖縄戦及び戦後の沖縄の歴史をサンフランシスコの人々に紹介するため、展示会及びシンポジウムが行われた。沖縄戦を振り返り、戦後沖縄が見せた文化やコミュニティの再生、復興に向けた努力など沖縄の歴史的な展望を紹介。	380
H23	アルゼンチン	米須 清文	エイサー太鼓普及事業・琉球国祭り太鼓指導招聘 琉球国祭り太鼓指導者を招聘し、国内3地域を巡回。短期講座、勉強会を実施。琉球国祭太鼓、沖縄の伝統エイサー等の指導を通じて、青年グループの育成ならびに県系社会の強化、現地における沖縄文化の普及活動をはかる。	273

年度	地区	民間大使名	事業内容	助成額
H23	ペルー	名幸 ヨランダ	<p>在ペルー沖縄県移民を記念する音楽文化の記録・保存</p> <p>在ペルー沖縄県系人の音楽文化の原点を紹介し、貴重な文化を次世代に知らしめるため、映像、写真等のドキュメンテーションを日本語、スペイン語両言語で作成。</p>	153
H23	ペルー	山城・ホルヘ・アキラ	<p>沖縄文化キャラバンII</p> <p>沖縄の文化、芸術、武道等全般的な演武をペルーの国民に紹介し理解を深めてもらうことにより、さらなる沖縄の文化の発展に一助する。ペルーの沖縄県人会、琉球国祭太鼓、県人会婦人部、青年グループ、琉球舞踊関係者、武道関係者の協力により実施。</p>	215
H23	グアテマラ	ホルヘ・エレラ	<p>日本文化週間X I、沖縄フェスティバル・演武II</p> <p>ウエウエテナンゴ日本文化協会の代表メンバーと民間大使の協同で長期にわたり実施されるフェスティバル。前半の3日間は、日本-沖縄の物産展示を行い、2日間は日本、沖縄に関する伝統文化（折り紙、書道、日本語、生け花、そろばん、エイサー獅子舞等）披露を行い、また同後半2日間は日本、沖縄の武道（空手、古武道、合気道、座禅、武術）を専門家による指導で、日本、沖縄の文化理解を促進した。</p>	200
H23	米国 (イリノイ州)	サンドラ・郁子 ニコラス	<p>沖縄空手小林流の普及</p> <p>沖縄空手教室を開校し、内部規律の育成、地域社会との交流を促進し、沖縄スポーツのPRをはかる。沖縄空手小林流の宇座裕次郎氏がボランティアで空手を指導。継続的な廣zの開催や地域の日本祭りでの演武披露により、地域への空手文化の普及に努めた。</p>	49
H24	シンガポール	遠山 光一郎	<p>アジア若手ウチナンチュデータベース構築</p> <p>東南アジアウチナンチュネットワーク構築及び専用ページOneRyukyuを運営管理し、同地域のウチナンチュ同士の交流をを促進し結びつき強化を図る。訪問地はタイ、カンボジア、ベトナム。</p>	106

年度	地区	民間大使名	事業内容	助成額
H24	イギリス	森田 恵美子	Loochoo展（ルーチュー展） 沖縄県内外で活動する県出身現代アーティストによる合同のアート展をロンドンで6日間にわたり開催。ロンドンクリプトギャラリーでの展示のほか、ストリートパフォーマンス、学校でのワークショップを行い、ファッションデザイン、陶器、音楽など幅広い分野の沖縄文化を発信した。	250
H25	シンガポール	遠山 光一郎	アジアウチナーチュネットワーク構築事業 東南アジアを中心に、各地訪問しFacebookやYoutubeを活用してウチナーンチュネットワーク構築をH24年度に実施しており、交流を継続させることによりさらに強化する。また、ネットワークをアジア広域に広げる。	160
H25	米国	ローレンス・スミ子	沖縄エイサー太鼓推進事業 米ノースカロライナ州フェイエットビルインターナショナルフェスティバルにおいて、エイサー演武を披露した。	120
H25	グアテマラ	ホルヘ・エレラ	第13回日本文化紹介 第4回沖縄祭と演武会グアテマラ国ウエウエテナンゴ県において開催される日本文化を紹介する祭りの中で、沖縄祭りと演武会を行う。10年以上にわたって継続されている文化紹介祭で、空手の演武をメインとした沖縄文化の普及を促進した。	160
H25	スロバキア	ラディスラフ・クレメンティス	沖縄とスロバキアの友好関係を描くドキュメンタリー映画沖縄とスロバキア間における空手、古武道家の友好関係に焦点を当てたドキュメンタリー映画の制作。沖縄県の伝統文化が世界各地に波及し、スロバキアのような遠望の国にも広まっている様子を伝える。映画の撮影とインタビュー実施にかかる費用を助成。	160
H25	米国	山内 優子	第2回世界若者ウチナーンチュ大会 18～35歳をターゲットとする世界中のウチナーンチュ若者世代が、集まった参加者と共に学び、共有し、ネットワークを構築する。	400

年度	地区	民間大使名	事業内容	助成額
H26	シンガポール	遠山 光一郎	アジアウチナーンチュネットワーク構築 これまで構築してきたネットワークの強化、各地を訪問しFacebookなどを活用し、アジアにおけるウチナーンチュのネットワーク構築を図る。訪問国：ドバイ、ラオス。沖縄出身で現地で活躍している方々と会談。交流の継続や、アジアにおける沖縄についての情報発信などについて話し合った。	95
H26	スロバキア	ラディスラブ・クレメンティス	沖縄とスロバキアの友好関係を描くドキュメンタリー映画 沖縄の空手や古武道がいかんにして世界中に普及し、スロバキアのような遠方地まで伝わっていったか、沖縄とスロバキアの空手交流をテーマとしたドキュメンタリー映画の制作。H25年に撮影した素材をH26年は編集、DVD作成に要した費用に助成金が用いられる。	350
H27	米国	ルイス高江洲 佳代子	「沖縄の文化・観光紹介」創作エイサーLUCKの招致 沖縄県内にて活動する創作エイサーグループ「LUCK」をジョージア州アトランタに招致し、エイサーの公演および地元エイサーグループへの演舞指導や交流を通し、沖縄の文化普及を促進した。	210
H27	米国	ウェスリー・巖・上運天	ぬちどう宝：カリフォルニア州北部の沖縄県系高齢者のオーラルヒストリー（口述歴史） 沖縄戦終戦70周年を機に、カリフォルニア北部在住 沖縄県系高齢者の証言や沖縄戦の体験談を録画、記録編集し、沖縄戦に回する海外在住県系人の貴重なオーディオ資料を作成した。	145
H27	イギリス	森田 恵美子	ロックインオポジション 沖縄の音楽文化に関するトークライブセッション、コンプレーションの配布 ロンドン西部、イーストロンドン大学にて毎年実施される大学のフェスティバルにて沖縄大衆音楽に関するトーク&ライブセッションを行い、在学生や一般の観客に多様な沖縄の音楽文化を紹介した。	400

年度	地区	民間大使名	事業内容	助成額
H28	米国	上原 民子	西平芳子の沖縄伝統工芸展示会と大塚勝久「南の風」写真展 糸満市の姉妹都市であるレドンドビーチ市で写真家大塚氏の写真展及び沖縄伝統工芸家西平氏による伝統的な沖縄の陶器と琉球藍染・琉球漆器等の工芸品を紹介した。	400
H28	グアテマラ	ホルヘ・エレラ	日本文化祭、沖縄祭りとは日本武道演武会 グアテマラ国ウエウエテナンゴ県において開催される日本文化を紹介する祭りの中で、沖縄祭りとは演武会を行った。10年以上にわたって継続されている文化紹介祭で、空手の演武やエイサー等沖縄文化の普及を促進した。	203
H28	ブラジル	知念 直義	琉球芸能のすべて サンパウロ州劇場にて県系2世、3世による古典音楽の演奏、琉球舞踊や空手、エイサーを披露し、県系の観客のみならずブラジル社会に広く沖縄の伝統芸能を紹介した。	400
H28	ペルー	ルーベン・菅野	踊り ペルーでの100年の歴史 100年の間ペルーで沖縄文化の一つとして教えられてきた「踊り」をテーマにしたドキュメンタリービデオを制作した。ペルーで沖縄舞踊を教えている四人の先生の経験と沖縄文化への気持ちをインタビュー形式で撮影。	100
H28	ドイツ	崎原 永人	横井祐輔氏紅型展示会及びラコルド(沖縄民謡)演奏会 ドイツ(ケルン)にて紅型展・沖縄民謡演奏会、フランス(ニース)にて沖縄民謡演奏会を行った。ドイツの紅型展では作品の展示やワークショップを通じて紅型の歴史から道具紹介、染織の体験教室を行い、演奏会では音楽の紹介だけでなく紅型と三線の相互関係を説明。フランスの演奏会では演奏に合わせて琉舞も披露するなど、琉球文化・音楽の多様性を伝えた。	147

年度	地区	民間大使名	事業内容	助成額
H29	米国	林 ハリー	<p>第1回琉球祭inサンフランシスコ</p> <p>2017年で第50回を迎えるカリフォルニア桜祭りにおいて、「琉球祭」と銘打ち沖縄より民謡グループを招聘し、沖縄伝統芸能を紹介。でいご娘や島太鼓、シュビラーズによる三線や歌、エイサーを披露した。</p>	400
H29	米国	デイビッド・チャンバース	<p>ジョージア州ダルトン (USA) 及びサンルイスポトシ (メキシコ) での沖縄空手セミナー。</p> <p>沖縄より3名の空手師範(糸数盛昌氏、島袋善保氏、久場良男氏)を招聘してアメリカ・メキシコにおいて空手セミナーを開催。現地の空手愛好家に空手発祥の地、本場沖縄の範士に師事できる機会を提供し、沖縄伝統空手の普及を促進した。</p>	400
H29	ペルー	菅野 佐藤ルペン	<p>チャンカイ日校について</p> <p>ペルー リマ県ワラル郡ちゃんカイにはかつて、「チャンカイ日校」という日本人移民子弟のための学校が存在し、多くの沖縄系移民も教師として働き、生徒として学んでいた。1950年にはすでに閉校となっていることから、日系・沖縄系移民しの中であまり知られていない同校についてその歴史を語り継ぐべく、かつての生徒や教師、その家族にインタビューを行い、ドキュメンタリービデオの制作を行った。</p>	400

年度	地区	民間大使名	事業内容	助成額
H30	米国	上原 民子	ハワイ県系2世比嘉太郎氏の偉業についてノンフィクション作家による講演会をロサンゼルス州で開催。沖縄戦中に、通訳兵として住民への投稿の呼びかけや戦後沖縄に物資を送ったことで知られる比嘉氏の沖縄のチムグクルの偉業を幅広い世代に伝える取り組みを行う。	237
H30	米国	落合 三郎	日本語教育において高い水準を保つ大学で、三線と琉球舞踊のワークショップを実施。日本文化や沖縄文化に関心のある学生と一般市民に三振に触れる機会を提供し、沖縄文化の普及を促進。	9
H30	米国	デビット・チェンバー ス	沖縄より2名の空手師範（上地強氏、上原邦男氏）を招聘してアメリカジョージア州において空手セミナーを開催。本場沖縄一心流空手の範士に師事できる機会を提供し、沖縄伝統から手の普及を促進した。また、自身も空手家である医師のジョン・チャンドラー氏をゲストとし招き、空手の健康的利点について講演を行った。	374
H30	台湾	陳 保佑	沖縄の若手染織作家と三線演奏者を招聘し、沖縄伝統工芸及び音楽を紹介。沖縄文化に直接触れる機会を提供することで沖縄文化の普及を促進。また、台湾の芸術家や音楽家との交流により、沖縄と台湾の共通点を再認識し現地において、沖縄文化の理解を深める機会を提供。	190
H30	ペルー	菅野 佐藤ルベン	ペルーにおける著名な沖縄県系人のインタビューを行い、ドキュメンタリービデオを製作。ペルー国において活躍する沖縄県系人の功績や偉業について紹介し、後世のウチナーンチュ達へ語り伝える資料を制作。	364

年度	地区	民間大使名	事業内容	助成額
H31	イギリス	関戸 芳二	沖縄の慰霊の日に合わせ、okinawa dayをロンドンで実施。入場料無業でokinawa音楽演奏、琉球舞踊、エイサー演舞、沖縄空手の演舞、沖縄の物産の販売、旅行会社の出店による観光案内等を開催。	237
H31	フランス	大城 洋子	現地の子ども達への琉球芸能照会のため、組踊300周年事業パリ公演でパリを訪れる芸能団の選抜チームを招き、幼稚園及び小学校でワークショップを開催。	9
H31	ロシア	ワレリー マイストロヴォイ	空手を主として沖縄の伝統、文化、歴史をロシア国内で紹介するため、ロシアからの若手スポーツ指導者が体験して行う空手稽古の様子や県内の主要観光地巡りの様子をドキュメンタリーとして撮影し、DVDを作成。	374
H31	ブラジル	伊良皆 マリオ シゲオ	本格的な琉球舞踊を復興、継承するためサンパウロから大圭流華の指導者を招聘し、ロンドリーナ琉球舞踊グループへの指導及び合同講演会を開催。	190
H31	アメリカ	山内 優子	子ども達を対象にサマーデーキャンプを実施し、楽しみながら沖縄について学び、交流の機会を設けた。同時に、学生のキャンプリーダーを募集し、大学生世代の次世代リーダーを育成。	364
R2	ペルー	菅野 佐藤ルベン	日本から移民としてペルーへ渡り、ペルー各地の農場で労働者として働いた“ヤナコナス”（農場労働者）について、沖縄県出身者が多く働いていた農場での取材を中心に、ペルーのヤナコナスとして働いた移民一世たちの歴史をまとめたビデオ映像を制作。	338

年度	地区	民間大使名	事業内容	助成額
R3	ペルー	菅野 佐藤ルベン	約40年の歴史を持つペルーのゲートボールについて、創設者、機関長へのインタビュー、国内大会、国際大会での優勝などの歴史的映像等により、愛甲会ペルーゲートボールの全貌を明らかにし、彼らからペルーでのゲートボールの歴史を紹介する映像を制作。	292
R3	アメリカ	サンドラ 郁子 ニコラス	在シカゴ日本国総領事や5つの組織団体の有志の方達を対象に、沖縄料理の講習会を開催し、ムーチャー、ラフテー、ゴーヤチャンプルー、ゴーヤ佃煮の4品を作成。	94
R4	ペルー	菅野 佐藤 ルベン	約40年の歴史を持つペルーのゲートボールについて、創設者、機関長へのインタビュー、国内大会、国際大会での優勝などの歴史的映像等により、愛甲会ペルーゲートボールの全貌を明らかにし、彼らからルールでのゲートボールの歴史を紹介する像を制作。	357
R4	アメリカ	デビット・チェンバース	沖縄より空手師範の蔵元雅一氏を招聘してアメリカジョージア州において空手セミナーを開催。生徒や講師たちにとって大成功のうちに終了した。ダルトン市からも多くの支援と関心を得ることができた。既に来年の参加申し込みもいただいている。	400
R4	ボリビア	比嘉 徹	ボリビアのオキナワ移住地における琉球舞踊の普及、化粧・髪結い指導者の育成を目指して、沖縄とオンラインでつないで化粧や髪結いを指導し、オキナワ移住地地域の行事等に出演。	57

オ 国際ネットワーク事業実績

事業名	期間	参加人員 (県内)	予算 (千円)	テーマ等
①ウチナー民間大使 南米ブロック会議	平成3年 8月30日	30人	2,802	「世界のウチナーンチュネットワークの構想」に位置づけられたブロック会議で「ネットワークづくりに果たす民間大使の役割」等をテーマに開催。
②ウチナー民間大使 北米ブロック会議	平成4年 9月18日	31人	2,086	
③ウチナー民間大使 認証式	平成4年 11月14日	約140人	2,118	任期満了に伴い、次期民間大使のうち新たに認証された25人へ認証状を交付する。 「追加認証式」と位置づけ挙行された。
④ウチナーンチュデータサービスステーションの設置	平成4年11月	12,000件	—	世界で活躍するウチナーンチュに関する情報を内外の照会に積極的に提供する。
⑤ウチナー民間大使 ヨーロッパ会議	平成5年 2月12日	15人	2,778	①②のブロック会議と同じ。
⑥ウチナー民間大使 情報の入力	平成6年1月	125件		世界30ヶ国余で活躍しているウチナー民間大使の活躍分野、職業、住所、連絡先等を収録。
⑦第2回世界のウチナーンチュ大会の開催	平成7年 11月15日 ～19日	入場者数 約50万人 (うち海外から 3,409人)	326,345	世界で活躍する県系人に加えて、新たに沖縄と関係の深い外国人をも結び付け、さらなるウチナーンチュネットワークを形成するため第2回世界のウチナーンチュ大会の開催。
⑧ウチナー民間大使 ヨーロッパ・アフリカ ブロック会議	平成8年 7月20日	7人	—	①②のブロック会議と同じ位置づけで「沖縄県とのかかわり」及び「ヨーロッパとの文化交流について」のテーマで開催された。
⑨ウチナー民間大使 南米ブロック会議	平成8年 8月17日	35人	—	国際交流情報センター（仮称）の建設に向けた今後の取り組み及び自由討論等で開催。
⑩ウチナー民間大使 在伯会議	平成10年 8月9日	8人	—	民間大使の役割及び今後のネットワークの強化について自由討論で開催。
⑪沖縄県人サミット (北米沖縄県人会創立90 周年記念式典)	平成11年 8月9日	40人	—	米国の県人会代表や民間大使が参加し、活動状況等について、県と情報・意見交換を行った。

事業名	期間	参加人員 (県内)	予算 (千円)	テーマ等
⑫ウチナー民間大使 会議の開催 (第3回世界のウチナー ンチュ大会)	平成13年 11月2日	110人	—	第3回世界のウチナーンチュ大会ウチナーシンポジウムにおいて開催。「21世紀における民間大使の役割と活動」をテーマに、民間大使の役割及びこれからの県と海外とのネットワークの拡充・強化について意見交換を行った。
⑬「世界のウチナーン チュに学ぶ」交流会 (県立那覇国際高等学校)	平成13年 11月5日	32人	—	那覇国際高等学校において、民間大使32人が参加し、各教室で同校生徒相手に自身の経験談を語る等生徒との交流を行った。
⑭ワールドウチナーシン ポジウム (第4回世界のウチナー ンチュ大会)	平成18年 10月14日	200人	—	県人会長や民間大使が一同に会し、ウチナーネットワークを継承、発展させるためには、若い世代の交流が不可欠とし、「ホストファミリーバンク」の推進を決議。
⑮県人会指導者会議 (北米沖縄県人会創立 100周年記念祭典)	平成21年 8月28日	30人	—	米国各地の沖縄県人会の代表者や民間大使が一同に集まって共通の話題を討議し、県会同士の協力体制を構築していく。

(6) ウチナージュニアスタディー事業概要

ア 事業目的・概要

ウチナージュニアスタディー（旧ジュニアスタディーツアー）は、沖縄県の海外移住者子弟を本県に招待し、県内の同年代の青少年と生活をともにしながら沖縄の歴史や文化等を学ぶことにより、海外移住者子弟の母県・沖縄への理解と絆を深めるとともに、世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成することを目的としている。平成13年度に「第3回世界のウチナーンチュ大会」のプレイベントとして実施され、海外県人会等からの継続要望が強かったため、平成14年度から毎年実施している。なお、平成24年度から新たに「青年リーダー」枠を設けた。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため事業を中止し、令和3年度はプログラムの大部分をオンラインで実施し、海外参加者の沖縄への受入は中止した。令和4年度は海外参加者については沖縄への受入を中止し、オンライン参加でプログラムを実施した。

イ 令和4年度事業内容

- 実施時期 令和4年6月25日（土）～10月30日（日）（4回に分けて実施）
 - 参加者
 - ・海外参加者 海外県系人子弟（中学・高校生） 10名
 - ・国内参加者 県内の中学・高校生 21名
 - 県外の高校生 2名
 - ・その他 ジュニアスタディーツアー、ウチナージュニアスタディーOBボランティア等
- ※海外青年リーダー及び県内青年リーダーは応募無し

○学習プログラム

- ①自然学習
沖縄の自然や動植物等についてその大切さを学ぶ。
- ②歴史学習
沖縄の歴史的な史跡や沖縄の歴史を学ぶ。
- ③芸能、工芸体験学習
沖縄の歴史から生まれた工芸・芸能等の文化を知る。
- ④平和学習
沖縄戦を通じて、平和の意味を考える。
- ⑤社会学習
沖縄での生活について学び、沖縄の「今」を知る。
- ⑥移民・移住学習
沖縄県の移民の歴史を学び、同じウチナーンチュとしてのアイデンティティーを確認する。

ウ これまでの海外参加者・引率者・青年リーダー内訳

★はウチナーンチュ大会開催年

○国別内訳

() 内は、平成23年度までは引率者の人数、平成24年度からは青年リーダーの人数

国名	年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4	計
		★					★					★					★					★	
1	ボリビア	4 (1)	2	2 (1)	2	2	4 (1)	2 (1)	1	1	1 (1)	3	1	2	3	2	3	2	1	2 (1)			40 (6)
2	ブラジル	8 (2)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	6 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	3	3	2	3	3	2	2	2	3	1	64 (12)
	うちカンボグランデ	2 (1)	1	1 (1)	1	1	2	1	1	1	1		1	1 (1)	1	1	1	1	1	1	1		21 (3)
3	アルゼンチン	4 (1)	2 (1)	2	2 (1)	2 (1)	3	2	2 (1)	2	2	3 (1)	1	3	2	2	2	2	1	2	2	1	44 (6)
4	ペルー	4 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	1	2 (1)	2	3	1	2	1 (1)	2	3	1	1 (1)	2	3 (1)	2	43 (7)
5	ベネズエラ	1 (1)																					1 (1)
6	メキシコ	2 (1)					1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16 (1)
7	キューバ		1 (1)	1 (1)	1 (1)		1 (1)		1 (1)	1 (1)	1 (1)												7 (7)
8	フランス	1 (1)																					1 (1)
9	イギリス	1 (1)				1 (1)	2					1							1				6 (2)
10	ドイツ	1 (1)						1			1 (1)		1		1								5 (3)

【前ページ表の続き】

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4	計	
11 米国	★					★					★					★					★		
アメリカ	17 (4)	6 (2)	6 (4)	5 (1)	5 (1)	10 (2)	5 (1)	4 (1)	6 (1)	7 (1)	7 (1)	5 (1)	2	2	3 (1)	4	4	6	4	5	4	117 (21)	
うちハワイ		2	2 (1)	1		1		1	1			1										10 (1)	
うちグアム	1		1 (1)																			2 (1)	
12 カナダ	4 (2)	1 (1)	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1		2	1 (1)	1	1			1	25 (4)
13 フィリピン	3 (1)	2 (1)	2 (1)	1	1	1	1										1					12 (3)	
14 シンガポール		1 (1)																				1 (1)	
15 マレーシア						1		1			1			1	1	1						6	
16 韓国														1	1	1	1					4	
ニュージーランド(フランス領)								1	1	1	1		1						1			6	
17 オーストラリア																		1	1			2	
計	50 (17)	20 (9)	19 (9)	17 (5)	17 (5)	34 (6)	17 (4)	15 (4)	18 (4)	21 (5)	23 (3)	14 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)	20 (1)	15 (1)	15 (1)	15 (1)	14 (1)	10	399 (76)	

○世代別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4	計
1世				1	2	1		1			1		1			1						8
2世	26	5	6	6	3	14	5	2	5	8	8	5	2	5	3	5	4	4	5	3	2	126
3世	21	8	10	8	9	13	8	5	8	7	8	4	6	7	4	8	7	7	8	5	4	165
4世	3	7	3	2	3	5	4	7	5	5	6	5	6	3	8	6	4	3	2	5	4	96
5世						1				1								1				3
計	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	15	15	15	13	10	375

○海外参加者の男女別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4	計
男子	★					★					★					★					★	
男子	30	9	5	7	6	15	6	4	6	9	10	6	6	6	7	7	3	7	4	7	6	166
女子	20	11	14	10	11	19	11	11	12	12	13	8	9	9	8	13	12	8	11	6	4	232
計	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	15	15	15	13	10	398

エ これまでの県内・県外参加者内訳

★はウチナンチュ大会開催年

○学生別内訳

()内は県外参加者

※青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4	計
小学生	★					★					★					★					★	
小学生	9																					9
中学生	24	13 (3)	7 (1)	5	4	11	4	4	5	6	7	2	3	5	4	4	2	3	4	5	6	128 (4)
高校生	17	11 (1)	18 (2)	15	15	22	13	11	13	15	17	12 (1)	12	11	12 (1)	18 (2)	14	13	12	12 (2)	15 (2)	298 (11)
計	50	24 (4)	25 (3)	20	19	33	17	15	18	21	24	14 (1)	15	16	16 (1)	22 (2)	16	16	16	17 (2)	21 (2)	435 (15)

○県内・県外参加者の男女別内訳

()内は県外参加者

※青年リーダーは含まない

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4	計
男子	★					★					★					★					★	
男子	15	6	4 (1)	4	5	7	3	3	4	3	4	2	3	3	4	4	3	3	3	6 (2)	6 (1)	95 (4)
女子	35	18 (4)	21 (2)	16	14	26	14	12	14	18	20	12 (1)	12	13	12 (1)	18 (2)	13	13	13	11	15 (1)	340 (11)
計	50	24 (4)	25 (3)	20	19	33	17	15	18	21	24	14 (1)	15	16	16 (1)	22 (2)	16	16	16	17 (2)	21 (2)	435 (15)

オ これまでの参加者合計 (海外、県内・県外)

○参加者合計

年度	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R3	R4	計
海外	★					★					★					★					★	
海外	50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	15	20	15	15	15	13	10	398
県内・国内	50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	24	14	15	16	16	22	16	16	16	17	23	437
計	100	44	44	37	36	67	34	30	36	42	47	28	30	31	31	42	31	31	31	30	33	835

(7) 海邦養秀ネットワーク構築事業

ア 事業目的・概要

沖縄県の若い世代を海外に派遣し、国際感覚に富む人材を育成するとともに、現地の県系人、特に若い世代との交流を通して相互の絆の強化に努め、派遣先国の県系人社会の活性化を図ること等により、「ウチナーネットワーク」の継承及び発展に資することを目的とする。

イ 事業の経緯

- 平成18年度の第4回世界ウチナーンチュ大会の「ワールドウチナーシンポジウム」にて議決。
- 平成19年度から、県内学生を海外県人会へ派遣する「海外県人会ホームステイ派遣事業」を実施。
- 平成20年度から23年度にかけて、海外県系人子弟を県内ホストファミリーが受け入れる「海外県系人子弟ホームステイ受入事業」を実施。
- 平成24年度から「海邦養秀ネットワーク構築事業」の名称で、派遣に特化した事業として実施。
- 平成28年度末、事業開始10周年を機に振り返りを行い、目的に「県系人社会の活性化」を追加するとともに、より高次の目的が「ウチナーネットワークの継承及び発展」であることを明記。その上で、平成29年度から改めて事業を開始。

ホームステイプログラム (例)

- ア) 国際感覚に富む人材の育成を図るため、派遣先国の企業・文化施設の視察等を行う。
- イ) 相互の絆の強化に努め、次世代のウチナーネットワークの継承・発展を図るために、県系人、特に県系子弟等の若い世代と様々な交流を行う。
- ウ) 若い世代の県人会活動への参加促進等、現地の県系人社会の活性化に貢献するために、県人会との交流会や行事に参加し、親睦を深める。

ウ 令和4年度事業内容

新型コロナウイルス感染症の影響により派遣を中止し、オンラインを活用した海外交流及びワークショップを実施する。

エ 事業実績

①海外県人会ホームステイ派遣事業

年度	国・地域 (県人会名)	人数
H19	米国 ジョージア州アトランタ (アトランタ沖縄県人会)	3
	米国 ハワイ州ホノルル (ハワイ沖縄連合会)	8
H20	米国 ハワイ州オアフ島 (ハワイ沖縄連合会)	7
	米国 カリフォルニア州ガーデナ (北米沖縄県人会)	6
	カナダ アルバータ州レスブリッジ (レスブリッジ沖縄文化協会)	5
H21	カナダ ブリテッシュコロンビア州バンクーバー (バンクーバー沖縄県友愛会)	10
	米国 ニューメキシコ州アルバカーキ (ニューメキシコ沖縄県人会)	8

H22	アルゼンチン ブエノスアイレス (在亜沖縄県人連合会)	7
H23	米国 ワシントンD.C. (ワシントンD.C. 沖縄会)	6
	米国 ノースカロライナ州ジャクソンビル (ジャクソンビル沖縄県人会)	6
H24	ブラジル サンパウロ州 (ブラジル沖縄県人会)	6
H25	ペルー リマ市 (ペルー沖縄県人会)	7
H26	ボリビア サンタクルス市 (ボリビア沖縄県人会)	9
H27	ドイツ デュイスブルク (ドイツ沖縄県人会)	10
H28	ペルー リマ市 (ペルー沖縄県人会)	10
H29	アルゼンチン ブエノスアイレス (在亜沖縄県人連合会)	10
H30	米国 カリフォルニア州ロサンゼルス (北米沖縄県人会)	10
R1	カナダ ブリテッシュコロンビア州バンクーバー (バンクーバー沖縄県友愛会)	10
R3	中国 福建省 ※オンライン交流	25
R4	米国 ハワイ州 ※オンライン交流	23
合計		183

②海外県人会ホームステイ受入事業 (平成23年度で終了)

年度	国・地域 (県人会名)	人数
H20	ブラジル (ブラジル沖縄県人会)	2
H21	米国ジョージア州アトランタ (アトランタ沖縄県人会)	2
	カナダブリテッシュコロンビア州バンクーバー (バンクーバー沖縄県友愛会)	1
H22	米国オハイオ州 (オハイオ州沖縄友の会)	1
	米国ハワイ州ホノルル (ハワイ沖縄連合会)	2
	アルゼンチンブエノスアイレス (在亜沖縄県人連合会)	3
	米国フロリダ州 (タンパベイ沖縄県人会)	1
	米国ジョージア州 (サウスジョージア沖縄クラブ)	1
H23	ブラジル (ブラジル沖縄県人会)	1
	ペルー (ペルー沖縄県人会)	2
	米国ミシガン州 (ミシガン沖縄県人会ちむぐる会)	1
	ボリビア (ボリビア沖縄県人会)	1
合計		18

(8) ウチナーネットワークサポート事業

ア 事業目的・概要

これまで実施した県交流事業の県内及び海外OB・OGのネットワークを維持・強化するため、事業終了後も本県の国際交流及び次世代のウチナーネットワークを担う若い人材をフォローアップし、彼らが活動しやすい環境づくりを促進する。

イ 令和4年度事業内容

県交流事業等のOB・OGネットワークの構築を推進する事業や「世界のウチナーンチュの日」に関連する事業等に対して補助金を交付する。

①補助団体：学校法人沖縄キリスト教学院

補助額：53,000円

事業名称：映画「オキナワサントス」上映会&トークイベント

事業内容：映画とトークイベントを通して、ブラジルに渡った沖縄県系人が第二次世界大戦中にどのような経験をしたか、またどのような想いで今まで生きてきたかを知る。ウチナーンチュ大会に合わせて来沖予定のブラジル県人会関係者にも登壇いただき、ブラジル沖縄県人会の取り組みなども聞きながら世界のウチナーンチュの日にあわせて沖縄と海外に住む沖縄県系人とのつながりを考える機会とする。

実施期間：令和4年10月1日～令和4年12月5日

実施場所：沖縄キリスト教学院 シャローム会館 1-1 教室

(事業中止) 補助団体：南山歴史研究会

補助額：500,000円

事業名称：仮称『琉球王国史』日本語並びに英語翻訳本の各国県人会への寄贈

事業内容：コロナの影響で「世界のウチナーンチュの日」に来沖できない各国の多くの県人会のために仮称『琉球王国史』英語翻訳本を郵送し、学校でも教えていない沖縄の歴史や先祖のルーツを学び、次世代の若者への沖縄の歴史や文化の継承を図る。

実施期間：事業中止

(9) おきなわ国際協力人材育成事業

(O I Cユース Okinawa International Cooperation Youth Reporters)

ア 事業目的・概要

おきなわ国際協力人材育成事業は、将来の沖縄県の国際交流と貢献活動を担うグローバルな視点を備えた次世代の人材を育成することを目的として、県内の高校生をアジア・太平洋地域の開発途上国等へ派遣し、国際協力活動の現場視察や現地の若者と交流する「国際協力レポーター事業（派遣）」と国際協力活動の経験者による出前講座を行う「国際協力理解促進事業（出前講座）」を実施する。国際協力機構(JICA)の協力の下、平成25年度より実施している。

イ 令和4年度事業内容

①国際協力レポーター事業

- 実施期間計画 令和4年7月～8月
- 重点テーマ 保健医療、福祉、平和、環境、教育、地域開発、国際協力及び各テーマにおける沖縄との関わり
- 参加人数 県内高校生 11名
- 主なプログラム 事前研修（7～8月）4回
海外派遣（8月10日～19日）10日間
事後研修（8月下旬）1回
報告会（8月下旬）1回

②国際協力理解促進事業（出前講座）

- 実施期間 令和4年10月4日(火)～令和5年1月23日(月)
- 実施校数 21校（県内高等学校、中学校）
- 受講者数 1,468名

ウ 過去の実績（令和3年度）

①国際協力レポーター事業

- 実施期間計画 令和3年7月～8月
- 重点テーマ 【東北地方】 重点テーマ：復興支援、地方創生
【石川県】 重点テーマ：自然環境、持続可能な地域づくり、地方創生
【広島県】 重点テーマ：平和、多文化共生、地方創生

○参加人数 県内高校生 38名（東北12名、石川13名、広島13名）

○主なプログラム 事前研修（7月）

連続オンライン研修（8月上旬）

【主な実施内容】

- ・国際交流体験（カンボジア、フィリピン、エジプト）
- ・国内や沖縄におけるSDGs及び地域課題解決の取組に係る講義、オンラインツアー（東北、石川、広島）
※自然環境、伝統文化、まちづくり、平和、多文化共生等のテーマに関する課題解決に向けた取組
- ・世界で活躍するウチナーンチュによる講話
- ・地域の課題解決を考えるビジョンボード作成
- ・各自の行動宣言「はじめの一步」

事後研修（8月中旬～下旬）

報告会（8月下旬）

②国際協力理解促進事業（出前講座）

- 実施期間 令和3年10月4日(月)～令和4年1月31日(月)
- 実施校数 21校（県内高等学校、中学校）
①具志川商業高校 ②那覇高校 ③琉大附属中学校
④知念高校 ⑤中部商業高校 ⑥昭和薬科高校 ⑦前原高校
⑧南部商業高校 ⑨中部農林高校（定時制） ⑩北中城高校
⑪宜野座高校 ⑫本部高校 ⑬那覇商業高校 ⑭コザ高校
⑮久米島高校 ⑯八重山高校 ⑰石垣中学校 ⑱浦添中学校
⑲読谷高校 ⑳那覇国際高校 ㉑沖縄尚学中学・高校
- 受講者数 1,524名

(10) 多文化共生推進調査事業

ア 事業目的・概要

県民と在住外国人が相互理解し、快適に共存できるようにするために、日本語の理解力や文化の違いなどにより生活に支障をきたしている在住外国人の自立の支援、在住外国人を地域に受け入れる環境づくりを行う。県の役割として市町村の多文化共生推進施策の支援、市町村で対応出来ない広域的な課題への対応が求められていることから、平成 27 年度から市町村における多文化共生施策を促進するモデル事業等を実施している。

イ 令和 4 年度実施内容（ウクライナ避難民支援）

（ア）概要

ウクライナではロシア軍の侵攻により、生活が破壊され、恐怖の中で生きることを余儀なくされている現状に鑑み、沖縄県では、令和 4 年 3 月 14 日に、ウクライナ避難民の受け入れを表明した。

これまで沖縄県内へ 17 世帯 24 名(令和 5 年 2 月末現在、既に出国された方も含む)の方が避難されており、国、市町村、民間事業者、NPO 法人やボランティア団体などの関係機関と連携しながら、避難民への支援に取り組んでいる。

（イ）支援内容

交流推進課が行っている支援内容としては、①外務省及び出入国在留管理庁等の情報収集、②県内在住ウクライナ人等への聞き取り調査及び支援ニーズ等の把握、③ウクライナ避難民の来沖時の一時避難先へのアテンド、宿泊支援、④多言語による生活相談の実施、⑤日本赤十字社が設置している「ウクライナ人道危機救援金」の県民への周知、⑥避難民への医療費等の支援（ウクライナ避難民受入支援事業）などを行っている。

(11) 沖縄・兵庫友愛キャンプ

ア 事業目的・概要

沖縄県と兵庫県との交流を結ぶことになった沖縄戦中最後の知事「島田 勲」の功績や沖縄の歴史・文化等、様々な分野について、沖縄と兵庫の若者が共に学ぶことを通じ交流を深めることで、相互理解の促進及び交流ネットワークを構築する人材を育成する。夏期キャンプを沖縄で、冬期キャンプを兵庫県にて実施する。

イ 経緯

昭和47年、沖縄県の本土復帰を機に、沖縄県と兵庫県の両青年の間から心のふれあいを深め、励まし合おうとの願いを込めて、兵庫県と沖縄県の友愛運動が生まれた。このキャンプは、その友愛運動のひとつとして、昭和48年から実施しており、令和4年度で50回目を迎えた。

ウ 令和4年度事業内容

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の流行しやすい夏期を避けるとともに、第7回世界のウチナーンチュ大会への参加を目的として、沖縄では秋期にキャンプを実施することとした。秋期キャンプおよび冬期キャンプの内容は下記のとおりである。

(ア) 秋期キャンプ

- ①日 時：令和4年11月3日（木）～6日（日）（3泊4日）
- ②参加者：沖縄県12名、兵庫県8名（合計20名）
- ③主なプログラム：
 - 1日目 開会式、組踊り体験、ウチナーンチュ大会への参加
 - 2日目 首里城見学、ダイビング体験、BBQ交流会
 - 3日目 県庁警察部壕・轟壕・沖縄県平和祈念資料館の見学、島守の塔・のぎじくの塔参拝、兵庫・沖縄友愛提携50周年記念懇親会
 - 4日目 班別行動、閉会式

(イ) 冬期キャンプ

- ①日 時：令和5年2月9日（木）～2月12日（日）
- ②参加者：沖縄県15名、兵庫県7名
- ③主なプログラム：
 - 1日目 開会式、兵庫津ミュージアム見学
 - 2日目 スノーシューハイク、組木づくり体験、温泉街散策、交流会
 - 3日目 人と防災未来センター見学、長田区被災地まち歩き、大交流会
 - 4日目 班別行動、班別振り返り、閉会式

(12) うつくしま・ちゅらしま交流事業

ア 事業目的・概要

うつくしま・ちゅらしま交流事業は、福島県との交流事業であり、平成15年度に沖縄県・福島県が締結した「うつくしま・ちゅらしま交流宣言」に基づいて行っている。福島県の事業である「雪だるま親善大使派遣事業」は平成14年から始まり、沖縄県では、平成25年度から「さとうきび親善大使派遣事業」を実施している。

福島県と沖縄県の児童が、雪とサトウキビという、この時期両県ならではの素材を贈り合い、互いの県への理解を深め、将来にわたる相互交流の拡大を図ることを目的として実施している。

イ 令和4年度事業内容

①雪だるま親善大使(福島県実施)

福島県猪苗代町の子供たちの代表を「雪だるま親善大使」として沖縄県に派遣するとともに、本物の雪を沖縄の子供たちにプレゼントすることにより、沖縄では珍しい雪を素材とした子供たち同士の交流機会の創出と、将来にわたる両県の交流拡大を図る。

実施時期：令和5年1月23日(月)～25日(水)

実施場所：沖縄県

訪問団：雪だるま親善大使(小学生2名)、大使の保護者2名、福島県職員3名

訪問・視察先：沖縄県庁、宜野湾市立普天間第二小学校等

②さとうきび大使派遣事業(沖縄県実施)

沖縄県内の子供たちの代表を「さとうきび親善大使」として福島県猪苗代町の小学校に派遣し、沖縄の特産物であるさとうきびの贈呈、子供たち同士の交流会を行い、今後の両県の相互交流の促進・発展を図る。

実施時期：令和5年2月7日(火)～10日(金)

実施場所：福島県

派遣団：さとうきび親善大使(小学生2名)、大使の保護者2名、教頭1名

沖縄県職員4名

訪問・視察先：福島県庁、猪苗代町教育委員会、猪苗代町立猪苗代小学校等

(13) 沖縄福建友好県省交流事業

ア 事業目的・概要

沖縄県と福建省は、友好県省を締結し、経済交流、文化交流、人的交流等、様々な交流を行っている。更なる交流の発展を推進するために、定期的に福建省政府と意見交換を実施し、ネットワークの強化を図っている。

イ 令和3年度事業内容

【沖縄県・福建省友好県省締結25周年記念式典事業】

R4.11 「沖縄県福建省友好県省締結25周年記念式典」開催

月日：令和4年11月25日（金）

場所：福州園（那覇市）

内容：・沖縄県知事、福建省省長の挨拶

- ・（来賓挨拶）律桂軍福岡総領事、亀井啓次在広州日本総領事、沖縄県議会議長、（祝電）孔絃佑大使メッセージ
- ・友好県省25周年記念泡盛・白酒の甕入れ式
- ・公費留学生の相互派遣に関する協定の署名式
- ・沖縄福建合同エイサー演舞

【沖縄県・福建省友好県省締結25周年記念関連事業】

R5.12 中国大学生オンライン交流（令和4年12月17日（土））

※日中友好会館「日中植林・植樹国際連帯事業」との連携事業

・環境をテーマとした沖縄・福建大学生の相互のプレゼンテーション、食文化紹介等を通じた交流。

R4.12 第8回福建省大学エイサー大会（オンライン開催）沖縄県福州駐在所主催への参加（令和4年12月18日（日））

・交流推進課長の挨拶及び審査員参加。

R5.2 エイサー交流ワークショップ（令和5年2月15日～3月8日）

・福建省のエイサーチームを対象に、オンラインでのワークショップを開催し県内エイサー団体による技術指導を行う）

R5.3 沖縄・福建バーチャル観光ツアー（オンライン）（令和5年3月4日）

・沖縄と福建の交流に関する史跡などをライブ配信で紹介。

R5.3 「沖縄県と福建省との交流のあゆみと未来 ～演奏&ゆんたくセッション」の開催（令和5年3月11日）

・基調講演「現在のアジア地域における沖縄と福建との友好関係が持つ役割について」（加藤嘉一氏）

・パネルディスカッション「沖縄と福建・中国これからの25年に向けて、ゆんたく！」（西原圭祐氏、MAYA氏、豊里健一郎氏、MAIKO氏）

・ライブステージ（西原圭祐氏（三線）、MAYA氏（二胡）セブンアップス）

ウ 事業実績

平成27年度

H27.7 福建省外事弁公室を訪問。留学生事業、福建・沖縄ウィーク等について意見交換

H27.11 福建・沖縄ウィーク開催

(福建省から外事弁公室主任を団長とする政府関係者、福州市関係者、企業関係者、芸能団体等による訪問団が来沖し、経済セミナー・商談会、芸能公演等を実施)

平成28年度

H28.10 文化スポーツ統括監が福建省外事弁公室を訪問。友好県省締結20周年記念事業について意見交換

H29.2 福建省外事弁公室主任が来庁。副知事と友好県省締結20周年記念事業について意見交換

平成29年度

【沖縄県・福建省友好県省締結20周年記念事業】

<目的>

平成29年は沖縄県と福建省が友好県省を締結して20年の節目の年に当たることから、福建省政府及び庁内関係課と意見交換、調整を行いながら、友好県省締結20周年記念式典等、様々な事業を展開し、両地域の友好関係の更なる発展に繋げる。

<日程>

福建省開催 11月9日(木)～13日(月) 4泊5日
(沖縄県側参加者：知事をはじめ総勢111名(内、記念祝賀会参加者110名))
※観光物産展、経済交流セミナー参加者及び空手関係者を含む。

沖縄県開催 11月24日(金)～26日(日)
(福建省側参加者：副省長をはじめ総勢46名)

<事業内容>

①福建省開催

- ・友好県省締結20周年記念式典・レセプション開催
- ・芸能団を福建省に派遣し、現地の芸能団との合同公演を実施
- ・記念植樹
- ・両県省の若者や留学生OB・OG間の交流会を実施
- ・観光物産展における演舞披露

②沖縄県開催

- ・友好県省締結20周年記念式典・レセプション開催
- ・福建無形文化遺産のプロモーション
- ・福建省観光プロモーションイベント・関連業者マッチング
- ・両県省の交流をテーマとしたシンポジウムの実施
- ・両県省の交流に関するパネル作成

③その他

- ・外務省「日中植林・植樹国際連帯事業」中国大学生友好交流訪日団の地方訪問受入れ
人数：49名(福建省の大学生46名、引率者3名)
来県日：9月13日(水)～16日(金)
内容：植樹活動、環境学習、大学生間交流、歴史・文化体験等

平成30年度

H30.11 福建省外事弁公室、大学を訪問。留学生事業等今後の交流事業について意見交換、福建省内エイサーサークル関係者へのアンケート調査実施、第4回福建省エイサーチャンピオンシップ大会出席

H31. 3 友好県省 20 周年を記念して福建省から沖縄県に寄贈された獅子像を万国津梁館に設置し、「中国福建省寄贈獅子像除幕式」を開催

【獅子像設置及び中国福建省寄贈獅子像除幕式の概要】

経緯：友好県省 20 周年の記念に福建省から沖縄県に寄贈
場所：万国津梁館
設置完了：平成31年 3 月 5 日
除幕式：平成31年 3 月11日
出席者：文化観光スポーツ部長、福建省人民政府外事弁公室副主任ほか

令和元年度

R1. 7 福建省平潭(ピントン)行政訪問団来県、表敬訪問及び意見交換
R1.11 福建省を訪問し、留学生事業等今後の交流事業について意見交換、若者交流プログラムの実施、第5回福建省エイサーチャンピオンシップ大会出席
福建省協和学院エイサー団来県、表敬訪問

令和2年度

R2. 5 福建省とのWEB会議実施 福建省外事弁公室と文化観光スポーツ部の意見交換
R2.11 沖縄県福州事務所主催の第6回福建省大学エイサー大会（オンライン開催）後援
R3. 3 次世代へのウチナーネットワーク継承のためのプラットフォーム「ウチナーネットワークコンシェルジュ」開設に伴い、福建ー沖縄の留学生等同窓会（交流会）を立ち上げ、関係機関によるセレモニーを開催
沖縄ー福建留学研修意見交換会（WEB開催）
出席：沖縄県・福建省友好提携自治体
（沖縄県、那覇市、浦添市、宜野湾市、福建省、福州市、泉州市、廈門市）
沖縄県・福建省留学生交流会実施（WEB開催）

令和3年度

R3. 8 日中韓青年オンライン交流フォーラム実施（福建省主催で、日中韓の若者がオンラインで交流する会合が開催され、日韓駐在の中国総領事館、日中韓の自治体や福建省への留学経験者等若者が参加）
R3.10 福建省とのWEB会議実施 友好県省締結 25 周年記念事業について意見交換
R3.12 沖縄県福州事務所主催の第7回福建省大学エイサー大会（オンライン開催）後援

3 旅券センターの業務概要

○旅券の概要

①旅券の意義

旅券(パスポート)は、日本国政府が外国政府に対して、その所持人が日本国民であることを証明し、併せてその人が安全に旅行及び滞在ができるよう保護と扶助を要請する公文書です。

旅券を持っていなければ、どこの国にも入国できないばかりでなく、日本から出国もできません。

諸外国の政府は、旅券によりその所持人の国籍をはじめ身元を確認し、自国内への入国、滞在等を認め、また、必要な場合には保護や扶助を与えることになっていますから、旅券は海外を旅行し、また滞在する方にとって欠くことのできない重要な公文書です。

このような旅券の重要性を深く認識し、県民の皆様が十分に注意して旅券を管理することが強く望まれています。

②旅券の種類

旅券には、一般旅券と公用旅券の2種類があります。公用旅券は、国の用務のため外国に渡航する者及びその同伴者に対して発給され、外務省が直接取り扱っています。一般旅券は公用旅券以外の者に対して発給され、都道府県において取り扱っています。一般旅券には10年旅券と5年旅券があります。

③旅券の効力

一般旅券は、特別の記載がない限り、全ての国にその有効期間中であれば何回でも往復渡航ができるようになっており、旅券発行の日から5年間又は10年間有効です。

ただし、国によっては旅券の残存期間(3か月～6か月程度の場合が多い)を要求する場合があります。

○旅券の申請(交付)窓口

沖縄県で申請できるのは、原則として県内に住民登録(現住所)のある方です。

ただし、学生や長期出張者など、特例として住民登録していない都道府県での申請ができる場合があります。(居所申請と呼んでいます。)

沖縄県では平成22年度から市町村への旅券事務の権限移譲を行っており、沖縄県旅券センターのほか、令和2年4月1日現在39市町村の窓口で旅券の手続きができます。窓口のある市町村に住民登録のある方は、原則として市町村役場での手続きとなります。

① 沖縄県旅券センター(南部合同庁舎2階)

那覇市旭町116番地37 電話098-866-2775

② 移譲市町村(39市町村)

宜野湾市、石垣市、浦添市、名護市、沖縄市、うるま市、宮古島市、南城市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、読谷村、嘉手納町、北谷町、北中城村、中城村、西原町、与那原町、南風原町、渡嘉敷村、座間味村、栗国村、渡名喜村、南大東村、北大東村、伊平屋村、伊是名村、久米島町、八重瀬町、多良間村、竹富町、与那国町、豊見城市 (R5.3.31現在)

○申請に必要な書類 (R5.3.31現在)

	提出書類等	手数料
新規発給 ・初めての方 ・有効期間が切れた方	①一般旅券発給申請書 ② 戸籍謄本 ③住民票(住基ネット利用により省略可) ④写真(縦45mm×横35mm) ⑤身元確認の書類(運転免許証等)	10年旅券 16,000円 5年旅券 11,000円 12歳未満 6,000円
切替新規 ・残存有効期間が1年未満となったとき	①一般旅券発給申請書 ②住民票(住基ネット利用により省略可) ③写真(縦45mm×横35mm) ④有効旅券 ○ 戸籍謄本 は、 18歳以上 の方の有効期間内の切り替えて氏名・本籍地に変更のない方は省略可。 但し、未成年者、一時帰国者の方は省略不可。	10年旅券 16,000円 5年旅券 11,000円 12歳未満 6,000円
変更旅券 有効旅券の姓名、本籍の都道府県名等に変更があったとき	①一般旅券発給申請書 ② 戸籍謄本 ③住民票(住基ネット利用により省略可) ④写真(縦45mm×横35mm) ⑤有効旅券 ※作成される旅券の有効期間満了日は返納する旅券と同一となる。	6,000円

○申請に必要な書類

	提出書類等	手数料
紛(焼)失届 ・パスポートを紛失、盗難、焼失したとき ※紛(焼)失届出と同時に新規発給申請が可能	①紛失一般旅券等届出書 ②警察署の発行した紛失届出を立証する書類 又は消防署等の発行した罹災証明書等 ③住民票(住基ネット利用により省略可) ④パスポート用写真(45mm×35mm) ⑤身元確認の書類(運転免許証等)	(注)紛(焼)失届出により、紛(焼)失したパスポートは失効する。

～申請についてのご注意～

- ※ケースによっては、その他の追加書類等が必要な場合もあります。
- ※**戸籍謄本**、住民票は発行日から6か月以内のもの。
- ※写真は6か月以内に撮影され、パスポート用規格のもの。

○窓口開設時間 ※土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12/29～1/3)・慰霊の日(6/23)はお休みです。

旅券センター	月曜～金曜日 午前8時45分～午後4時30分(受取は午後5時まで)
市町村	月曜～金曜日 受付時間は、各市町村へお問合せください。

○旅券の交付日数

種類	交付日数(土・日曜日・祝日は除く)
一般旅券発給申請	申請から6開庁日 (市町村 10開庁日)

○受取り時に必要な書類

※受取りは必ず申請者本人がおいでください。

- ①一般旅券申請受理票(引換書)
- ②手数料(収入印紙と沖縄県証紙)

沖縄県旅券(パスポート)窓口の案内 (2023年3月現在)

※土日祝祭日、年末年始(12/29～1/3)および慰霊の日はお休みです



1 県の窓口

窓口のない市町村(那覇市、糸満市)に住民登録をしている方又は居所(通勤・通学先を含む)のある方

取扱窓口	所在地	電話番号	申請受付時間	旅券受取時間	昼休み
沖縄県旅券センター	那覇市旭町116-37 (沖縄県南部合同庁舎2階)	098-866-2775	8:45～16:30	8:45～17:00	—

2 市町村の窓口

下記の市町村に住民登録している方又は居所のある方(※それぞれの市町村役場での手続きとなります。)

取扱窓口	所在地	電話番号	申請受付時間	旅券受取時間	昼休み
1 宜野湾市 市民課	宜野湾市野嵩1-1-1	098-893-4411	8:30～16:00	8:30～17:00	12:00～13:00
2 石垣市 市民課	石垣市字真栄里672	0980-87-9004	8:30～16:30	8:30～17:00	12:00～13:00
3 浦添市 市民課	浦添市安波茶1-1-1	098-876-1283	8:30～16:00	8:30～17:00	12:00～13:00
4 名護市 市民課	名護市港1-1-1	0980-53-1212 (内173)	8:30～17:00	8:30～17:15	—
5 沖縄市 市民課	沖縄市仲宗根町26-1	098-939-1212	8:30～16:00	8:30～17:00	—
6 豊見城市 市民課	豊見城市宜保1-1-1	098-850-0103	8:30～16:00	8:30～17:00	12:00～13:00
7 うるま市 市民課	うるま市みどり町1-1-1	098-973-3206	8:30～16:30	8:30～16:30	—
8 宮古島市 市民生活課	宮古島市平良字西里1140	0980-72-3751	8:30～16:00	8:30～17:00	11:30～13:00
9 南城市 市民課	南城市佐敷字新里1870	098-917-5312	8:30～16:00	8:30～17:00	12:00～13:00
10 国頭村 住民課	国頭村字辺土名121	0980-41-2142	8:30～16:00	8:30～17:15	12:00～13:00
11 大宜味村 住民福祉課	大宜味村字大兼久157	0980-44-3003	8:30～17:15	8:30～17:15	—
12 東村 住民課	東村字平良804	0980-43-2203	8:30～16:00	8:30～17:00	12:00～13:00
13 今帰仁村 住民課	今帰仁村字仲宗根219	0980-56-2102	8:30～16:30	8:30～17:00	12:00～13:00
14 本部町 住民課	本部町字東5	0980-47-2102	8:30～15:45	8:30～17:15	12:00～13:00
15 恩納村 村民課	恩納村字恩納2451	098-966-1205	8:45～16:00	8:45～17:00	12:00～13:00
16 宜野座村 村民生活課	宜野座村字宜野座296	098-968-8501	8:30～17:00	8:30～17:15	12:00～13:00
17 金武町 住民生活課	金武町字金武1	098-968-3557	8:30～16:45	8:30～17:00	12:00～13:00
18 伊江村 住民課	伊江村字東江前38	0980-49-2002	8:30～17:00	8:30～17:00	—
19 読谷村 住民年金課	読谷村字座喜味2901	098-982-9207	8:30～16:00	8:30～17:00	11:30～13:00
20 嘉手納町 町民保険課	嘉手納町字嘉手納588	098-956-1111	8:45～16:30	8:45～17:15	12:00～13:00
21 北谷町 住民課	北谷町桑江1-1-1	098-936-1234	8:30～16:30	8:30～17:15	12:00～13:00
22 北中城村 住民生活課	北中城村字喜舎場426-2	098-935-2233	8:30～16:00	8:30～17:00	12:00～13:00
23 中城村 住民生活課	中城村字当間585-1	098-895-2137	8:30～16:00	8:30～17:00	12:00～13:00
24 西原町 町民課	西原町字与那城140-1	098-945-5012	8:30～15:00	8:30～17:15	12:00～13:00
25 与那原町 住民課	与那原町字上与那原16	098-945-2072	8:30～16:30	8:30～17:00	12:00～13:00
26 南風原町 住民環境課	南風原町字兼城686	098-889-4414	8:30～16:00	8:30～17:15	12:00～13:00
27 渡嘉敷村 民生課	渡嘉敷村字渡嘉敷183	098-987-2322	8:30～17:00	8:30～17:00	12:00～13:00
28 座間味村 総務・福祉課	座間味村字座間味109	098-987-2311	8:45～16:00	8:45～16:30	12:00～13:00
29 粟国村 総務課	粟国村字東483	098-988-2016	8:30～16:45	8:30～17:00	12:00～13:00
30 渡名喜村 総務課	渡名喜村1917-3	098-989-2002	8:30～17:15	8:30～17:15	12:00～13:00
31 南大東村 福祉民生課	南大東村字南144-1	09802-2-2036	8:15～17:00	8:15～17:00	12:00～13:00
32 北大東村 総務課	北大東村字中野218	09802-3-4001	8:15～17:00	8:15～17:00	12:00～13:00
33 伊平屋村 住民課	伊平屋村字我喜屋251	0980-46-2142	8:30～17:15	8:30～17:15	—
34 伊是名村 総務課	伊是名村字仲田1203	0980-45-2001	8:30～17:00	8:30～17:00	12:00～13:00
35 久米島町 町民課	久米島町字比嘉2870	098-985-7123	8:30～17:15	8:30～17:15	12:00～13:00
36 八重瀬町 住民環境課(本庁)	八重瀬町字東風平1188	098-998-2443	8:30～16:00	8:30～17:00	12:00～13:00
37 多良間村 住民福祉課	多良間村字仲筋99-2	0980-79-2623	8:30～17:00	8:30～17:00	12:00～13:00
38 竹富町 町民課	石垣市美崎町11-1	0980-82-6191	8:30～17:15	8:30～17:15	—
39 与那国町 総務課	与那国町字与那国129	0980-87-2241	8:30～17:15	8:30～17:15	12:00～13:00

※15時又は16時以降の受付は翌日受理扱いとする市町村がありますので、上記電話番号へお問い合わせください。

※昼休み時間が記載されている市町村は、その時間帯を除いての申請・受取となります。

※市町村窓口では、申請から受取まで約2週間かかります。申請は余裕を持ってお早めをお願いします。

4 海外移住者の支援とネットワークづくり

(1) 沖縄県民の海外移住の推移

日本人の海外移住は明治元年（1868年）のハワイ移住で始まったが、沖縄からの移住は、明治32年（1899年）12月30日に移民27名がハワイへ出発したことに始まる。

その後、明治36年（1903年）には、第2回ハワイ移民40名が自由民権運動家当山久三の引率で渡航したことに続いて、同年アメリカ本土へ初めて51名が渡航するなど、北米大陸への移住が本格的に行われた。

ところが、大正12年（1923年）頃からアメリカ、カナダで排日運動が激しくなり日本人の移住が制限されたため、沖縄県人の移民は北米大陸から南米大陸へ主力が向けられ、ブラジル、ペルーを中心に多数の県民が南米大陸へ渡航した。

戦後の本県の海外移住は、アルゼンチンへの呼寄移住で始まった。昭和23年（1948年）戦後最初の移住者33名がアルゼンチンへ渡航したのをはじめにブラジル、ボリビアなど南米方面への移住が活発に行われるようになった。

特に、昭和27年（1952年）4月、琉球政府の発足とともに総務局に移民課が設置され海外移住が強力に推進されたこと、昭和28年（1953年）からアメリカ合衆国民政府（U S C A R）と琉球政府の計画でボリビアへの集団移住が促進されたこと、更に昭和35年（1960年）には、琉球海外移住公社が設立され海外移住が一層促進されたこと等があって、南米大陸への移住者は飛躍的に増大した。

昭和33年にピークに達した海外移住者は、昭和30年代後半から我が国の経済発展に伴い県民の移住志向が減退するなど国内情勢の変化と移住先国の受入条件の制約等もあって移住者は減退するようになり、さらに、中南米諸国の経済不況等もあって減少の一途をたどっている。

また、国は、政府の支援を必要とする中南米諸国への移住者が著しく減少し、先進国指向の個人ベースの移住へと変化してきている状況を踏まえ、移住者の送出事業を平成5年度で終了している。

(2) 海外移住に対する県の考え方

沖縄県は全国でも有数の移民県であり、戦前・戦後を通じて多くの県人が海外へ移住し、今では海外在住県系人は約42万人となっており、国際交流の懸け橋として各分野で活躍している。

県としては、海外移住の意義及び本県の海外移住の歴史的背景に鑑み、今後とも国や独立行政法人国際協力機構と提携しつつ、海外移住県系人及びその子弟を支援していくとともに、世界中に広がるウチナーネットワークの継承・発展及び移住先国との友好関係維持を図っていく必要がある。